

VIII 各授業科目

1. 授業科目表及び履修に関する注意事項

(1) 基礎セミナー

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
基 礎 セ ミ ナ ー A	演 習	2	
基 礎 セ ミ ナ ー B	演 習	2	

〔履修に関する注意事項〕

開講形態		文系のみ のクラス	文理融合クラス	理系のみ のクラス		
対象学部	開講時期	① 文 学 部 教育学部 法 学 部 経済学部 情報(人社)	② 文 学 部 情報(自然・コン) 教育学部 理学部 法 学 部 医学部 経済学部 工学部 情報(人社) 農学部	④ 情報(自然・コン) 理学部 医学部 工学部 農学部	③ 医学部(医)	⑤ 医学部(保)
基礎セミナーA	火曜 4 限 木曜 4 限	○ ○				
	月曜 5 限 木曜 5 限		○ ○		○	
I 期 (春学期)	月曜 4 限 火曜 5 限 水曜 3 限 金曜 4 限 金曜 5 限			○ ○ ○ ○ ○		○
基礎セミナーB	火曜 4 限 木曜 4 限	○ ○				
	月曜 5 限 木曜 5 限		○ ○		○	

(注) 対象学部以外に開講されている基礎セミナーは、受講できませんので注意してください。

1. 開講形態

- ① 文 系 の み の ク ラ ス : I 期及びII期を通じて、同じクラスで受講。
- ② 文 理 融 合 ク ラ ス : I 期及びII期、それぞれクラスを選択して受講。
(原則として、文系学部6名、理系学部6名)
- ③ 理系(医・医)のクラス : I 期及びII期、それぞれクラスを選択して受講。
- ④ 理 系 の み の ク ラ ス : I 期のみ受講。
- ⑤ 理系(医・保)のクラス : I 期のみ受講。

2. 受講希望調査

- (1) 各基礎セミナーは、12名という受講者数制限があります。
- (2) ガイダンス前にシラバスにより希望するテーマ(授業)をよく考えておいてください。
- (3) シラバスにより希望するテーマを第6位まで選択してください。
なお、この際に希望するテーマが時間割上、「同じ時間帯」の授業に集中しないようにしてください。
- (4) 理系学生は、希望するテーマが基礎セミナーB(II期)に開講されている場合には、I期の受講申請をせずに、II期において受講することができます。
- (5) 理系学生で「④理系のみクラス」及び「⑤理系(医・保)のクラス」を受講した学生が、さらにII期にも受講を希望する場合には、「②文理融合クラス」を受講することができます。

3. 受講調整と調整結果

- (1) 受講調整は、受講希望に基づいて、受講者数制限（定員 12 名）まで割り振り、どの基礎セミナーに所属するかを決定します。
その際、第 6 希望までのテーマに入らない場合は、他の基礎セミナーに割り振られることがあります。
- (2) 一度決定された基礎セミナーからの変更及び辞退は、原則としてできません。

4. 文系学生及び医学部・医学科学生の単位補充

- (1) 基礎セミナー A 及び基礎セミナー B で単位を修得できなかった場合は、次年度で修得することになります。
- (2) シラバス等で、Ⅰ期・Ⅱ期を通じて同じクラスで受講することが指示されている授業については、年度をまたがって履修することができませんので、担当教員の指示に従ってください。
また、各学部の基礎セミナー受講に関するガイダンスに従ってください。

5. 理系学生（医学部・医学科を除く）の単位補充

基礎セミナー A で単位の修得ができなかった場合は、基礎セミナー B を修得することで、単位補充をすることができます。

(2) 言語文化

〔授業科目表〕

授業科目			単位数	備考
言語文化Ⅰ	英語（基礎）	演習	1	
	英語（中級）	演習	1	
	英語（コミュニケーション）	演習	2	
	英語（上級）	演習	2	
	英語（セミナー）	演習	2	
	英語（上級リーディング）1	演習	1	
	英語（上級リーディング）2	演習	1	
	英語（サバイバル）	演習	1	随意科目
	ドイツ語 1	演習	1.5	
	ドイツ語 2	演習	1.5	
	ドイツ語 3	演習	1.5	
	ドイツ語 4	演習	1.5	
	フランス語 1	演習	1.5	
	フランス語 2	演習	1.5	
	フランス語 3	演習	1.5	
	フランス語 4	演習	1.5	
	ロシア語 1	演習	1.5	
	ロシア語 2	演習	1.5	
	ロシア語 3	演習	1.5	
	ロシア語 4	演習	1.5	
	中国語 1	演習	1.5	
	中国語 2	演習	1.5	
	中国語 3	演習	1.5	
	中国語 4	演習	1.5	
	スペイン語 1	演習	1.5	
	スペイン語 2	演習	1.5	
	スペイン語 3	演習	1.5	
	スペイン語 4	演習	1.5	
	朝鮮・韓国語 1	演習	1.5	
	朝鮮・韓国語 2	演習	1.5	
	朝鮮・韓国語 3	演習	1.5	
	朝鮮・韓国語 4	演習	1.5	
	日本語（口頭表現）1	演習	1.5	外国人留学生を対象
	日本語（口頭表現）2	演習	1.5	外国人留学生を対象
	日本語（文章表現）1	演習	1.5	外国人留学生を対象
	日本語（文章表現）2	演習	1.5	外国人留学生を対象

授業科目			単位数	備考
言語文化Ⅱ	特別英語セミナー（ライティング）1	演習	2	
	特別英語セミナー（ライティング）2	演習	2	
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	演習	2	
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）2	演習	2	
	特別英語セミナー（リーディング）1	演習	2	2021年度は開講しない
	特別英語セミナー（リーディング）2	演習	2	
	特別英語セミナー（資格試験英語）1	演習	2	
	特別英語セミナー（資格試験英語）2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級ドイツ語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級ドイツ語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級ドイツ語1	演習	2	
	中級ドイツ語2	演習	2	
	上級ドイツ語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級ドイツ語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級フランス語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級フランス語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級フランス語1	演習	2	
	中級フランス語2	演習	2	
	上級フランス語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級フランス語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級ロシア語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級ロシア語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級ロシア語1	演習	2	
	中級ロシア語2	演習	2	
	上級ロシア語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級ロシア語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級中国語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級中国語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級中国語1	演習	2	
	中級中国語2	演習	2	
	上級中国語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級中国語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級スペイン語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級スペイン語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級スペイン語1	演習	2	
	中級スペイン語2	演習	2	
	上級スペイン語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級スペイン語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級朝鮮・韓国語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級朝鮮・韓国語2	演習	2	2021年度は開講しない
	中級朝鮮・韓国語1	演習	2	
	中級朝鮮・韓国語2	演習	2	
	上級朝鮮・韓国語1	演習	2	2021年度は開講しない
	上級朝鮮・韓国語2	演習	2	2021年度は開講しない
	初級古典ギリシア語1	演習	2	2021年度は開講しない
	初級古典ギリシア語2	演習	2	2021年度は開講しない

	初級ラテン語 1	演習	2	2021 年度は開講しない
	初級ラテン語 2	演習	2	2021 年度は開講しない
	初級イタリア語 1	演習	2	
	初級イタリア語 2	演習	2	
	初級ポルトガル語 1	演習	2	
	初級ポルトガル語 2	演習	2	
	中級ポルトガル語 1	演習	2	2021 年度は開講しない
	中級ポルトガル語 2	演習	2	2021 年度は開講しない
	ベトナム語入門	演習	2	2021 年度は開講しない
	上級日本語（文章表現）1	演習	2	外国人留学生を対象
	上級日本語（文章表現）2	演習	2	外国人留学生を対象
言語文化Ⅲ	文化事情（英語）	演習	2	英語及び英語以外の外国語
	文化事情（ドイツ）1	演習	1	科目の単位として扱わない
	文化事情（ドイツ）2	演習	1	
	文化事情（フランス）1	演習	1	
	文化事情（フランス）2	演習	1	
	文化事情（中国）1	演習	1	2021 年度は開講しない
	文化事情（中国）2	演習	1	2021 年度は開講しない

[履修に関する注意事項]

1. 英語

①言語文化Ⅰ（必修科目）

教育学部，法学部，経済学部，医学部（医），農学部

コース	I 期	II 期	III 期	IV 期	備考
A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	英語（セミナー）	卒業単位として， 英語（基礎）1 単位， 英語（中級）1 単位， 英語（コミュニケーション）2 単位， 英語（上級）2 単位， 英語（セミナー）2 単位 が必要
Pre-A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	英語（セミナー）	
B	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	英語（セミナー）	
C	英語（サバイバル） 英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	英語（セミナー）	

文学部

コース	I 期	II 期	III 期	IV 期	備考
A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級） 英語（上級リーディング）1	英語（上級リーディング）2	卒業単位として， 英語（基礎）1 単位， 英語（中級）1 単位， 英語（コミュニケーション）2 単位， 英語（上級）2 単位， 英語（上級リーディング）計 2 単位 が必要
Pre-A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級） 英語（上級リーディング）1	英語（上級リーディング）2	
B	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級） 英語（上級リーディング）1	英語（上級リーディング）2	
C	英語（サバイバル） 英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級） 英語（上級リーディング）1	英語（上級リーディング）2	

情報学部，理学部，工学部

コース	I 期	II 期	III 期	備考
A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	卒業単位として， 英語（基礎）1 単位， 英語（中級）1 単位， 英語（コミュニケーション）2 単位， 英語（上級）2 単位 が必要
Pre-A	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	
B	英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	
C	英語（サバイバル） 英語（基礎）	英語（中級） 英語（コミュニケーション）	英語（上級）	

医学部（保）

コース	I 期	II 期	III 期	備考
A	英語（基礎）	英語（中級）	英語（コミュニケーション）	卒業単位として， 英語（基礎）1 単位， 英語（中級）1 単位， 英語（コミュニケーション）2 単位 が必要
Pre-A	英語（基礎）	英語（中級）	英語（コミュニケーション）	
B	英語（基礎）	英語（中級）	英語（コミュニケーション）	
C	英語（サバイバル） 英語（基礎）	英語（中級）	英語（コミュニケーション）	

- (1) 入学時のプレイスメント・テストにより、A, Pre-A, B, C のコース分けを行います。
- (2) 「英語 (サバイバル)」はCコース学生のみが受講します。受講定員は原則 40 名であり、1 単位の授業です。ただし、成績評価は「P」または「NP」によってなされ、取得単位は卒業に必要な単位に認定されません。
なお、C コースの学生はこの授業に「合格(P)」しないと 2 年次の「英語」授業を受講できません。
- (3) 「英語 (基礎)」の受講定員は原則 40 名であり、1 単位の授業です。
- (4) 「英語 (中級)」の受講定員は原則 40 名であり、1 単位の授業です。
- (5) 「英語 (コミュニケーション)」の受講定員は原則 20 名であり、2 単位の授業です。
- (6) 「英語 (上級)」の受講定員は原則 20 名であり、2 単位の授業です。
- (7) 「英語 (セミナー)」の受講定員は原則 25 名であり、2 単位の授業です。
- (8) 「英語 (上級リーディング)」の受講定員は原則 40 名であり、1 単位の授業です。
- (9) 各期に受講できる単位数は次のとおりです。この上限を超えて履修することはできません。なお、IV期以降は、不足単位数分のみ受講できます。
ただし、これは言語文化Ⅰの受講制限であって、言語文化Ⅱは以下の計算式には含まれません。
 - 1) 教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部 (医)、工学部、農学部の場合
 - I 期：1
 - Ⅱ期：4－[Ⅰ期の修得単位数] (上限は 4 単位)
 - Ⅲ期：6－[Ⅰ期、Ⅱ期の修得単位数] (上限は 6 単位)
 - 2) 文学部の場合
 - I 期：1
 - Ⅱ期：4－[Ⅰ期の修得単位数] (上限は 4 単位)
 - Ⅲ期：7－[Ⅰ期、Ⅱ期の修得単位数] (上限は 7 単位)
 - 3) 医学部保健学科の場合
 - I 期：1
 - Ⅱ期：2－[Ⅰ期の修得単位数] (上限は 2 単位)
 - Ⅲ期：4－[Ⅰ期、Ⅱ期の修得単位数] (上限は 4 単位)
- (10) 言語文化Ⅰで修得すべき単位は、言語文化Ⅰの授業を受講して取得するのが原則ですが、言語文化Ⅱによって単位を取得した場合、そこで得た単位により最大 2 単位までを代替することが可能です。ただし、「英語(サバイバル)」に代替することはできません。また、これとは別に、「検定試験による単位認定制度」により、「英語 (基礎)」、「英語 (中級)」、「英語 (コミュニケーション)」のうち指定科目の修得単位とすることができます。
- (11) 「英語 (基礎)」及び「英語 (サバイバル)」を除く言語文化Ⅰの授業は、対象学部、あるいは複数の指定クラス内 (工学部) での選択制となっています。指定クラスの授業を放棄して、他の授業を受講することはできません。「英語 (基礎)」及び「英語 (サバイバル)」(C コース学生のみ受講) は授業を選択することなく、指定された授業を受講します。
- (12) 履修登録をしたにもかかわらず登録ができていなかった場合、及び履修登録期間に履修登録ができなかった場合は、定員を充足していない授業を受講することになります。

- (13) 「英語 (サバイバル)」に「合格(P)」できなかった場合は、2 年次開講の「英語」授業を履修することができません。「不合格」評価を得た場合は、「英語 (サバイバル)」を再度履修して「合格」評価を得なければなりません。

「英語 (基礎)」、「英語 (中級)」、「英語 (コミュニケーション)」、「英語 (上級)」で単位を取得できなかった場合は、同一名称の授業を再度履修するか、または、同一名称授業の単位補充クラスを受講して単位を取得しなければなりません。

「英語 (セミナー)」で単位を取得できなかった場合は、同一名称の授業を再度履修することによって、単位を取得しなければなりません。

「英語 (上級リーディング) 1」または「英語 (上級リーディング) 2」で単位を取得できなかった場合は、「英語 (上級リーディング) 1」または「英語 (上級リーディング) 2」を履修することによって、またはどちらかを複数履修することによって、卒業に必要な単位を取得しなければなりません。なお、「英語 (上級リーディング)」においては、同一教科書による授業を 2 つ受講しても、単位は認められないので注意してください。

- (14) 「英語 (サバイバル)」では、再試験が行われることがあります。

- (15) 単位補充クラスについて

授業を 5 回以上欠席した場合、成績が「W」となり、次の期に開講される当該科目の単位補充クラスの授業を受ける資格を失います。

同一科目の単位補充クラスを複数履修登録した場合、いずれの登録も削除され、履修不可となります。

単位補充クラスを受講する場合は、第 1 回目の授業に出席して受講資格の確認及び受講許可が得られなければ、当該学期に履修することはできません。

②言語文化

春学期	秋学期
特別英語セミナー（ライティング）1	特別英語セミナー（ライティング）2
特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	特別英語セミナー（プレゼンテーション）2
特別英語セミナー（リーディング）1	特別英語セミナー（リーディング）2
特別英語セミナー（資格試験英語）1	特別英語セミナー（資格試験英語）2

- (1) 言語文化Ⅱの受講定員は原則として20名であり、2単位の授業です。
- (2) 言語文化Ⅱはいずれの学年においても受講することができます。ただし、各期ともいずれか1クラスしか受講できません。また、検定試験の点数による受講制限（TOEFL ITP 515, TOEFL iBT 67, TOEIC 630, IELTS 5.5以上）があります。
受講希望者は、教養教育院事務室で受講申請を行ってください。この手続きを怠ると受講が認められません。
- (3) 言語文化Ⅱを受講することによって取得した単位のうち、最大2単位までを言語文化Ⅰの単位として取り扱うことができます。ただし、「英語(サバイバル)」に代替することはできません。
- (4) 同一教科書の授業を2つ受講しても、単位は認められないので注意してください。
- (5) 言語文化Ⅱは再試験を行いません。

③言語文化Ⅲ 文化事情（英語）

- (1) 言語文化Ⅲを、言語文化Ⅰあるいは言語文化Ⅱの単位補充のために受講することはできません。
- (2) 海外協定大学が提供する語学研修プログラムに参加して語学力を向上させ、帰国後にプレゼンテーションを行うことで単位認定がされます。

④履修相談

〔英語〕 内田教員（国際開発棟 8 階 801 号室, TEL : 052-789-4984
E-mail : uchida@cc.nagoya-u.ac.jp)

〔検定試験による単位認定制度〕

この制度は、英語及び英語以外の外国語の検定試験で所定の認定または点数を得た学生に対し、その認定または点数に基づいて、「英語（基礎）」・「英語（中級）」・「英語（コミュニケーション）」及び英語以外の外国語の「言語文化Ⅰ」の単位を認定するものです。

概要及び単位認定申請方法等について、以下に説明しますので、よく読んで間違いのないようにしてください。

1. 本制度が適用される学生

2021 年度入学生

（2020 年度以前入学生は、入学年度の履修の手引で検定試験の種類、認定単位数を確認してください。）

2. 単位認定の対象となる検定試験は次のとおりです。

「英語」

- ① 実用英語技能検定試験（英検）
- ② 技術英語能力検定（技術英検）
- ③ 国際連合公用語・英語検定試験（国連英検）
- ④ Test of English as a Foreign Language (TOEFL)
- ⑤ Test of English for International Communication (TOEIC)
- ⑥ ケンブリッジ英語検定（ケンブリッジ英検）
- ⑦ International English Language Testing System (IELTS)

「英語以外の外国語」

- ① ゲーテ・ドイツ語検定試験
- ② ドイツ語技能検定試験（独検）
- ③ DELF (Diplôme d'études en langue française)
- ④ 実用フランス語技能検定試験（仏検）
- ⑤ ロシア語検定試験（ТРКИ）
- ⑥ ロシア語能力検定試験
- ⑦ 中国語検定試験（中検）
- ⑧ 漢語水平考試（HSK）
- ⑨ DELE (Diplomas de español como lengua extranjera)
- ⑩ スペイン語技能検定（西検）
- ⑪ 韓国語能力試験（TOPIK）
- ⑫ ハングル能力検定試験（ハン検）

3. 認定される単位数

検定試験の結果に基づいて、単位認定を受けるには、指定された検定試験のいずれかにおいて、次表に定める認定または点数を得なければなりません。レベル・級位に応じ、対象授業科目のうちから認定可能単位

数の範囲内で認定されます。

なお、検定試験の認定日または受験日は、単位認定申請時の2年前までに限ります。

また、英語については、1年次4月と12月に行われる TOEFL ITP は含まれませんので、注意してください。

○英語

検定試験の種類（実施団体）	レベル・級位	認定対象授業科目	認定可能単位数
実用英語技能検定（公益財団法人日本英語検定協会）	一級	英語（基礎） 英語（中級） 英語（コミュニケーション）	左記の授業科目の内から、最大2単位
技術英語能力検定 （公益社団法人日本工業英語協会）	プロフェッショナル		
国際連合公用語・英語検定試験 （公益財団法人日本国際連合協会）	A級, 特A級		
TOEFL: Test of English as a Foreign Language（一般社団法人 CIEE 国際教育交換協議会）	88 以上		
TOEIC: Test of English for International Communication Listening & Reading Test （一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）	787 以上		
ケンブリッジ英語検定 （ケンブリッジ大学英語検定機構）	C1Advanced, C2Proficiency		
IELTS: International English Language Testing System（公益財団法人日本英語検定協会）	7.0 以上		

* いずれの検定試験も、正規の公開試験の結果のみが単位認定の対象となります。

○英語以外の外国語

言語	検定試験の種類（実施団体）	レベル・級位	認定対象授業科目	認定可能単位数
ドイツ語	ゲーテ・ドイツ語検定試験 （GOETHE INSTITUT）	A1	ドイツ語1～4	3単位
		A2, B1～C2	ドイツ語1～4	6単位
	ドイツ語技能検定試験 （公益財団法人ドイツ語学文学振興会）	4級	ドイツ語1～4	3単位
		3級～1級	ドイツ語1～4	6単位
フランス語	DELF （日本フランス語試験管理センター）	DELF A1	フランス語1～4	3単位
		DELF A2, B1～C2	フランス語1～4	6単位
	実用フランス語技能検定試験 （公益財団法人フランス語教育振興協会）	3級	フランス語1～4	3単位
		準2級～1級	フランス語1～4	6単位
ロシア語	ロシア語検定試験 （日本対外文化協会）	入門レベル	ロシア語1～4	3単位
		基礎レベル, 第1～第4レベル	ロシア語1～4	6単位
	ロシア語能力検定試験 （ロシア語能力検定委員会）	4級	ロシア語1～4	3単位
		3級～1級	ロシア語1～4	6単位
中国語	中国語検定試験 （一般財団法人日本中国語検定協会）	4級	中国語1～4	3単位
		3級～1級	中国語1～4	6単位
	漢語水平考試（HSK） （HSK 日本実施委員会）	4級	中国語1～4	3単位
		5, 6級	中国語1～4	6単位
スペイン語	DELE （セルバンテス文化センター）	DELE A1	スペイン語1～4	3単位
		DELE A2, B1～C2	スペイン語1～4	6単位
	スペイン語技能検定 （公益財団法人日本スペイン協会）	5級	スペイン語1～4	3単位
		4級～1級	スペイン語1～4	6単位
朝鮮・韓国語	韓国語能力試験 （大韓民国教育省・国立国際教育(NIIED)）	2級	朝鮮・韓国語1～4	3単位
		3級～6級	朝鮮・韓国語1～4	6単位

	ハングル能力検定試験 (特定非営利活動法人ハングル能力検定協会)	4 級	朝鮮・韓国語 1～4	3 単位
		3 級～1 級	朝鮮・韓国語 1～4	6 単位

* いずれの検定試験も、正規の公開試験の結果のみが単位認定の対象となります。

[注意] 卒業単位としての取扱いについては学部により異なりますので、注意してください。

- ① 検定試験の結果により単位認定を受けることができるのは、英語で最大 2 単位、英語以外の外国語で最大 6 単位までです。
- ② 既に当該学部の英語または英語以外の外国語に関する卒業必要単位数を充足している場合は、検定試験による単位認定は行われません。
- ③ 英語以外の外国語について、上記の表の定めるところに従い 3 単位の認定を受けた学生が、その後の検定試験において、6 単位の認定を受けるに値する認定または点数を得た場合には、所定の手続きを経た後、本学の単位としてさらに 3 単位の認定を受けることができます。ただし、一つの検定試験により単位認定を受けたうえで、さらに異なる検定試験において同水準の成績を修めても、単位は加算されません。
- ④ 他大学で取得した単位は、最大で 60 単位まで本学の単位として認定できることになっており、検定試験により認定される単位は、その 60 単位の中に含まれます。(名古屋大学通則第 23 条の 2 参照)
- ⑤ 英語について、C コースの学生で、英語検定試験で単位認定を受けた者は、「英語 (サバイバル)」の履修を免除します。
- ⑥ 検定試験による単位認定を受けた授業科目の成績評価は「T」となります。ただし、GPA には算入しません。
- ⑦ 英語は、既に単位を修得している科目には認定しません。
- ⑧ 英語以外の外国語については、履修中の言語以外の言語の検定試験についても申請することは可能です。
- ⑨ 英語の 2 科目 (英語 (基礎) の 1 単位、英語 (中級) の 1 単位) の 2 単位分を春学期又は秋学期のどちらかの学期に申請することが可能です。なお、同じ検定試験の結果で、英語 (基礎) の 1 単位、英語 (中級) の 1 単位を、学期を分けて申請することも可能です。また、検定試験の結果は、単位認定申請時の 2 年前まで有効となります。

4. 単位認定の申請

検定試験において所定の認定または点数を得た学生が、言語文化科目の単位として認定を希望する場合は、次に示す期間に教養教育院事務室に申請してください。申請手続きについては名大ポータルの教養教育院ページにて発表します。

春学期単位認定申請期間：2021 年 4 月 12 日 (月)～2021 年 4 月 16 日 (金)

秋学期単位認定申請期間：2021 年 10 月 4 日 (月)～2021 年 10 月 8 日 (金)

5. 単位認定の流れ

申請後、英語小部会又は初修外国語部会にて審査します。その際面接等はありません。申請書類に問題がなければ、申請した期の Web (教務システム) の「修得科目確認(成績照会)」で単位が確認できます。

6. 単位認定を受けた学生に対する措置

単位認定を受けた学生には、卒業単位ないし進級単位の修得上の必要の有無にかかわらず、たとえば言語文化Ⅰよりも高度なレベルの語学能力の養成を目指す言語文化Ⅱの授業を受講する方法により、英語及び英語以外の外国語の学習をさらに積極的に継続するよう奨励します。

2. 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）の履修に関する注意事項（英語以外の外国語の1言語については、以下【英語以外の外国語】と表記する）

英語以外の外国語の選択にあたっては各言語を紹介するホームページを参考にしてください。

<http://lang.ilas.nagoya-u.ac.jp>



① 言語文化Ⅰ（必修科目）

	I 期	II 期	III 期
学部指定オビ	【英語以外の外国語】1 【英語以外の外国語】2	【英語以外の外国語】3 【英語以外の外国語】4	
学部指定オビ以外 (5 時限目開講)		【英語以外の外国語】1 【英語以外の外国語】2	【英語以外の外国語】3 【英語以外の外国語】4

- (1) 受講定員は原則として 30 名であり、1.5 単位の授業です。
- (2) I 期に履修した【英語以外の外国語】を、II 期に異なる【英語以外の外国語】に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員（89 ページ参照）に相談してください。この場合、学部指定オビ以外（II, III 期の 5 時限目）に開講されるクラスで受講し、【英語以外の外国語】1, 2, 3, 4 を合計した 6 単位（1 言語の合計 6 単位）を履修しなければなりません。その中には、【英語以外の外国語】3, 4 を合計した 3 単位が含まれていなければなりません。

学部指定オビ以外のクラスでは、言語を変更する者を優先的に受け入れます。なお、言語を変更した場合、II 期の学部指定オビを受講することはできません。

- (3) 学部指定オビ以外の II 期の【英語以外の外国語】1, 2（5 時限目開講）は、I 期の【英語以外の外国語】1, 2 の単位補充として履修することができます。

なお、III 期の【英語以外の外国語】3, 4（5 時限目開講）は、I 期の【英語以外の外国語】1, 2, II 期の【英語以外の外国語】1, 2（5 時限目開講）及び II 期の【英語以外の外国語】3, 4 の単位補充として履修することができます。

ただし、受講定員は、1 クラス 30 名までという受講者数の制限があります。

- (4) 一つの外国語につき、各期に受講できる単位数は以下のとおりです。この上限を超えて履修することはできません。なお、IV 期以降は、不足単位数分のみ受講できます。ただし、これは言語文化Ⅰの受講制限であり、言語文化Ⅱは以下の計算式に含まれません。

《【英語以外の外国語】を変更しないで I 期から受講している者》

I 期 3

II 期 6 － [I 期の修得単位数]

III 期 6 － [I 期, II 期の修得単位数]

《【英語以外の外国語】を II 期から変更して受講し始めた者》

II 期 3

III 期 6 － [II 期の修得単位数]

② 言語文化Ⅱ（選択または随意科目）

対象学部（学部指定オビ）	Ⅲ 期	Ⅳ 期
文・教・法・経・情報（人社）	中級【英語以外の外国語】1	中級【英語以外の外国語】2

	春学期（1年～4年）	秋学期（1年～4年）
学部指定オビ以外	初級【英語以外の外国語】1 中級【英語以外の外国語】1 上級【英語以外の外国語】1	初級【英語以外の外国語】2 中級【英語以外の外国語】2 上級【英語以外の外国語】2

- (1) 受講定員は原則として30名であり、2単位の授業です。
- (2) 同一名称の科目を複数（学部指定オビと学部指定オビ以外のもの）履修することが可能です。
- (3) 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

③ 言語文化Ⅲ

「文化事情（ドイツ）」

- (1) 学部指定はありませんが、ドイツ語を半年以上学んだ学生しか受講することはできません。
- (2) 言語文化Ⅲを、言語文化Ⅰあるいは言語文化Ⅱの単位補充のために受講することはできません。
- (3) 「文化事情（ドイツ）1」の授業は、「文化事情（ドイツ）2」（フライブルク大学での短期ドイツ語研修プログラム）に参加を希望する学生の受講が優先されます。
- (4) 「文化事情（ドイツ）1」を履修しない場合は、「文化事情（ドイツ）2」の単位認定はされません。

「文化事情（フランス）」

- (1) 学部指定はありません。
- (2) 言語文化Ⅲを、言語文化Ⅰあるいは言語文化Ⅱの単位補充のために受講することはできません。
- (3) 「文化事情（フランス）1」の授業は、「文化事情（フランス）2」（ストラスブール大学での短期フランス語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが、同プログラムに参加を希望しない学生の受講も可能です。
- (4) 「文化事情（フランス）2」への参加には、本年度春学期までの本学フランス語科目の規定の単位をすべて修得している必要があります。
- (5) 「文化事情（フランス）2」の単位は、「文化事情（フランス）1」の授業を履修し、かつ同プログラムを修了した場合にのみ認定されます。

「文化事情（中国）」

- (1) 学部指定はありません。
- (2) 言語文化Ⅲを、言語文化Ⅰあるいは言語文化Ⅱの単位補充のために受講することはできません。
- (3) 「文化事情（中国）1」の授業は、「文化事情（中国）2」（同济大学での短期中国語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが、同プログラムに参加を希望しない学生の受講も可能です。
- (4) 「文化事情（中国）2」の単位は、「文化事情（中国）1」の授業を履修し、かつ同プログラムを修了した場合にのみ認定されます。

④ 【英語以外の外国語】の履修例

(1) 文学部・教育学部・経済学部・情報学部（人社）の場合

◎通常の履修例

I 期	II 期	III 期	IV 期
●【英語以外の外国語】1, 2	●【英語以外の外国語】3, 4	中級 ●【英語以外の外国語】1	中級 ●【英語以外の外国語】2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	2 単位	2 単位

◎II期の初めにおいて言語を変更した場合の履修例

I 期	II 期	III 期	IV 期
学部指定オビの ●【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】3, 4 学部指定オビの 中級 ▲【英語以外の外国語】1	学部指定オビの 中級 ▲【英語以外の外国語】2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5+2=5 単位	2 単位

(2) 法学部の場合

(通常の履修例)

I 期	II 期	III 期	IV 期
●【英語以外の外国語】1, 2	●【英語以外の外国語】3, 4	中級 ●【英語以外の外国語】 -----1----- (または) I 期, II 期で履修した言語以外のいずれかの 初級 ▲【英語以外の外国語】1	中級 ●【英語以外の外国語】 -----2----- (または) I 期, II 期で履修した言語以外のいずれかの 初級 ▲【英語以外の外国語】2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	2 単位	2 単位

(Ⅱ期の初めにおいて言語を変更した場合の履修例 1)

I 期	Ⅱ 期	Ⅲ 期	Ⅳ 期
学部指定オビの ●【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】3, 4	言語文化Ⅱのいずれか ※ただし、以下は除く Ⅱ, Ⅲ期で履修した言語 の初級 ▲【英語以外の外国語】1, 2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	2 単位

(Ⅱ期の初めにおいて言語を変更した場合の履修例 2)

I 期	Ⅱ 期	Ⅲ 期
学部指定オビの ●【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】3, 4 + 言語文化Ⅱのいずれか ※ただし、以下は除く Ⅱ, Ⅲ期で履修した言語 の初級 ▲【英語以外の外国語】1, 2
1.5+1.5= 3 単位	1.5+1.5= 3 単位	1.5+1.5+2=5 単位

(3) 情報学部（自然・コン）・理学部・医学部・工学部・農学部の場合

◎通常の履修例

I 期	Ⅱ 期
●【英語以外の外国語】1, 2	●【英語以外の外国語】3, 4
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位

◎Ⅱ期の初めにおいて言語を変更した場合の履修例

I 期	Ⅱ 期	Ⅲ 期
学部指定オビの ●【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】1, 2	学部指定オビ以外の ▲【英語以外の外国語】3, 4
1.5+1.5= 3 単位	1.5+1.5= 3 単位	1.5+1.5=3 単位

⑤ 履修相談

〔ドイツ語〕 中村教員（文学部本館 4 階 419 号室，TEL：052-789-2234

E-mail：yanaka@nagoya-u.jp)

〔フランス語〕 奥田教員（文系総合館 6 階 619 号室，TEL：052-789-5459

E-mail：t-okuda@nagoya-u.jp)

〔ロシア語〕 サヴェリエフ教員（国際開発研究科棟 7 階 705 号室，TEL：052-789-4396

E-mail：saveliev.igor@f.mbox.nagoya-u.ac.jp) 4.20変更

〔中国語〕 胡教員（全学教育棟本館北棟 3 階 311 号室，TEL：052-789-4196

E-mail：hu.jie@f.mbox.nagoya-u.ac.jp)

〔スペイン語〕 志波教員（全学教育棟本館北棟 4 階 402 号室，TEL：052-789-4349

E-mail：a-shiba@nagoya-u.jp)

〔朝鮮・韓国語〕 宇都木教員（全学教育棟本館北棟 2 階 204 号室，TEL：052-789-4989

E-mail：utsugi@nagoya-u.jp)

3. 日本語

① 言語文化Ⅰ

	I 期	II 期	III 期	IV 期
学部指定オビ	日本語(口頭表現) 1 日本語(文章表現) 1	日本語(口頭表現) 2 日本語(文章表現) 2		
学部指定オビ以外			日本語(口頭表現) 1	日本語(文章表現) 1

- (1) 受講定員は原則として 20 名であり、1.5 単位の授業です。
- (2) 日本語は、外国人留学生のみ対象です。
- (3) 日本語を選択した場合、日本語(口頭表現) 1、日本語(口頭表現) 2、日本語(文章表現) 1、日本語(文章表現) 2のうちから合計 6 単位が卒業必修単位です。なお、同一名称の科目を複数履修することも可能です。
- (4) III期及びIV期の日本語は、単位補充として履修することができます。
また、各期に受講できる単位数は以下のとおりです。この上限を超えて履修することはできません。
ただし、これは言語文化Ⅰの受講制限であり、言語文化Ⅱは以下の計算式に含まれません。

【日本語をⅠ期から受講している者】

I 期 3

II 期 $6 - [\text{I 期の修得単位数}]$ (上限は 6 単位)

III期 $6 - [\text{I 期, II 期の修得単位数}]$ (上限は 6 単位)

② 言語文化Ⅱ

対象学部(学部指定オビ)	III 期	IV 期
文・教・法・経・情報(人社)	上級日本語(文章表現) 1	上級日本語(文章表現) 2

- (1) 受講定員は原則として 20 名であり、2 単位の授業です。
- (2) 文系学部の学生の場合は、言語文化Ⅱの履修が卒業要件として必要です。
- (3) 言語文化Ⅱを言語文化Ⅰの単位補充のために受講することはできません。

③ 日本語の履修例

- (1) 文学部・教育学部・法学部・経済学部・情報学部(人社)の場合

◎通常の履修例

I 期	II 期	III 期	IV 期
日本語(口頭表現) 1 日本語(文章表現) 1	日本語(口頭表現) 2 日本語(文章表現) 2	上級日本語(文章表現) 1	上級日本語(文章表現) 2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位	2 単位	2 単位

- (2) 情報学部(自然・コン)・理学部・医学部・農学部・工学部の場合

◎通常の履修例

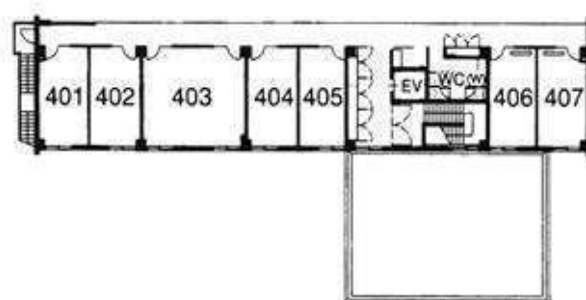
I 期	II 期
日本語（口頭表現）1	日本語（口頭表現）2
日本語（文章表現）1	日本語（文章表現）2
1.5+1.5=3 単位	1.5+1.5=3 単位

④ 履修相談

〔日本語〕浮葉教員（国際棟 4 階 403 号室，TEL：052-789-5771

E-mail：j46084a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)

⑤ 国際棟 4 階平面図



4. その他の言語

① 言語文化Ⅱ

	春学期	秋学期
学部指定オビ以外	初級古典ギリシア語 1 初級ラテン語 1 初級イタリア語 1 初級ポルトガル語 1 中級ポルトガル語 1 ベトナム語入門	初級古典ギリシア語 2 初級ラテン語 2 初級イタリア語 2 初級ポルトガル語 2 中級ポルトガル語 2 ベトナム語入門

受講定員は原則として 20 名であり，2 単位の授業です。

(3) 健康・スポーツ科学

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
健康・スポーツ科学講義	講義	2	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（アダプテッド）	実習	1	健康・スポーツ科学実習 の選択できる種目は、全 学教育科目授業時間割表 － COURSE TIMETABLE － で確認してください。
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（テニス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（バドミントン）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（卓球）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（ベースボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（ソフトボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（サッカー）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（バレーボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（バスケット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（ゴルフ）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（トレーニング）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（スイミング）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（太極拳）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（フィットネス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（フットサル）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（ラケット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（エアロビクス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（アーチェリー）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅰ（アルティメット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（アダプテッド）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（テニス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（バドミントン）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（卓球）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（ベースボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（ソフトボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（サッカー）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（バレーボール）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（バスケット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（ゴルフ）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（トレーニング）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（スイミング）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（太極拳）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（フィットネス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（フットサル）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（ラケット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（エアロビクス）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（アーチェリー）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（アルティメット）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（スキー）	実習	1	
健康・スポーツ科学実習Ⅱ（トレッキング）	実習	1	

〔履修に関する注意事項〕

全学基礎科目（健康・スポーツ科学）には、「講義」と「実習（Ⅰ・Ⅱ）」の２種類の授業科目があり、法学部、情報学部及び工学部を除いて、４単位が必修です（情報学部及び工学部は２単位必修、法学部は選択）。そのためには、「講義（２単位）」１コマと「実習（１単位）」２コマをそれぞれ履修しなければなりません。

1. 「健康・スポーツ科学講義」の履修上の注意

「健康・スポーツ科学講義」（以下、「講義」という）は、授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する講義（担当教員）を第３希望まで登録します。特定の教員について受講者が定員を超える場合には、調整が行われ、受講学生数に余裕のあるクラスに振り分けられます。「講義」は、講義期間中に講義室を移動して体験学習、演習などが行われることもあります。講義内容は、担当教員によって異なりますので、シラバスと第１回目の授業で内容をよく確認してください。

単位の認定は、試験（あるいはレポート）によって行われます。「講義」は、法学部、情報学部及び工学部を除くすべての学部で２単位（１コマ）が必修です。情報学部及び工学部については、「講義」または「実習」のいずれかで計２単位が必修です。

法学部については、選択履修です。

2. 「健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ」の履修上の注意

（１）種目選択

「健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ」（以下「実習」という）は授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する種目（担当教員）を第３希望まで登録します。受講希望者が各種目別の上限人数に達した場合には、抽選により種目が決定されます。第３希望までの種目に入れなかった場合には、教養教育院ホームページに掲載される「受け入れ可能な種目」を確認し、曜日・時限・希望種目を調整担当教員へメールにて連絡してください。受け入れ許可の返信を受けた場合にはポータルから修正登録を行ってください。

（２）ガイダンス

第１回目の授業は決定した種目の実施場所ガイダンスとなりますので、必ず参加してください（状況に応じてオンデマンド・ガイダンスとなる可能性もあります）。Ⅰ期１年次のガイダンス時に実習カードを作成しますので、顔写真（縦４cm×横３cm）と黒の油性ボールペンを持参してください（Ⅰ期に受講せず、Ⅱ期以降に初めて「実習」を受講する場合も同様です）。

（３）成績評価

各期に受講できる「実習」は原則１コマであり、担当教員により期ごとに出席・技能・態度等によって総合評価されます。

「実習」は、まず何よりも実践することが重要であり、したがって、休まずに授業に出席することが成績評価のための不可欠の条件です。

法学部、情報学部及び工学部を除くすべての学部で、２単位（２コマ分）が必修です。

情報学部及び工学部については、「講義」または「実習」のいずれかで計２単位が必修です。

（４）特別受講

必修単位数を超えて「実習」の単位修得を希望する場合は、授業担当教員の許可を得た上で受講でき

ます（必修受講の学生が定員を超える等の理由で受講が許可されない場合があります）。ただし、各期に受講できる「実習」は、上述のように原則 1 コマのみですので注意してください。その他の受講手続きは、必修での受講の場合と同様です。

(5) 既往症、体調不良について

実習の授業に参加するにあたり、既往症や体調不良がある場合には、ガイダンス時あるいは各回の実習開始時に必ず教員に連絡してください。

(6) 欠席の連絡

病気その他やむを得ない事情で欠席した、または欠席する時は、できるだけ速やかに(1 週間以内)、担当教員に連絡してください。連絡方法は、NUCT の「メッセージ」を利用して、担当教員（宛先を間違えないこと）に連絡するか、または総合保健体育科学センター事務室、各体育館管理人室に置いてある欠席届に記載し、担当教員または管理人等に提出してください。義務制ではありませんが、無届欠席は恣意的な欠席として処理されます。

なお、「名阪戦」、「国立七大学総合体育大会」および「東海地区国立大学体育大会」に参加するために欠席した場合、「実習」では欠席扱いにならないので、欠席を連絡する際にその旨を記載してください。

(7) 授業で使用する運動・スポーツ施設

授業で使用する運動施設は、96 ページを参照してください。授業は選択した各自の種目に基づいて指定された場所で行われます。

(8) 更衣

屋外種目の授業を受ける者は、山の上複合棟（男子）及びテニスコート管理棟（女子）の更衣室を使用してください。体育館で授業を受ける者は、体育館の更衣室を利用してください。その際、受講人数の多い場合は、ロッカーを共用して使用することもあります。更衣室は盗難防止のために授業開始時刻の 15 分前後に原則的に施錠します。

(9) 貴重品

現金・モバイルフォンその他の貴重品は自己の責任で管理してください。

(10) 服装

服装は、運動のできる、汚れてもよいものを着用してください。なお、テニスを受講する者は、テニスシューズを履いてください。また、体育館は、土足禁止であり、必ず体育館専用の靴を使用してください。

(11) 掲示

雨天時及びグラウンド状態不良時の授業場所は、全学教育科目用掲示板（全学教育棟本館 1 階）及び第 1 体育館入口、山の上新体育館入口、複合棟前、テニスコート管理棟前の掲示板に掲示、並びに教養教育院の公式 Twitter（113 ページ参照）にて情報発信します。また、1 限目については、豊田講堂前（バス停横）の総合案内所（守衛所）前にも掲示します。特に屋外で授業を受ける者は、グラウンド等の状態が良好でないことが予測されるときは、授業前に必ず掲示を見てください。なにも掲示されていないときには、平常どおり授業が行われます。休講についても同様に掲示されます。

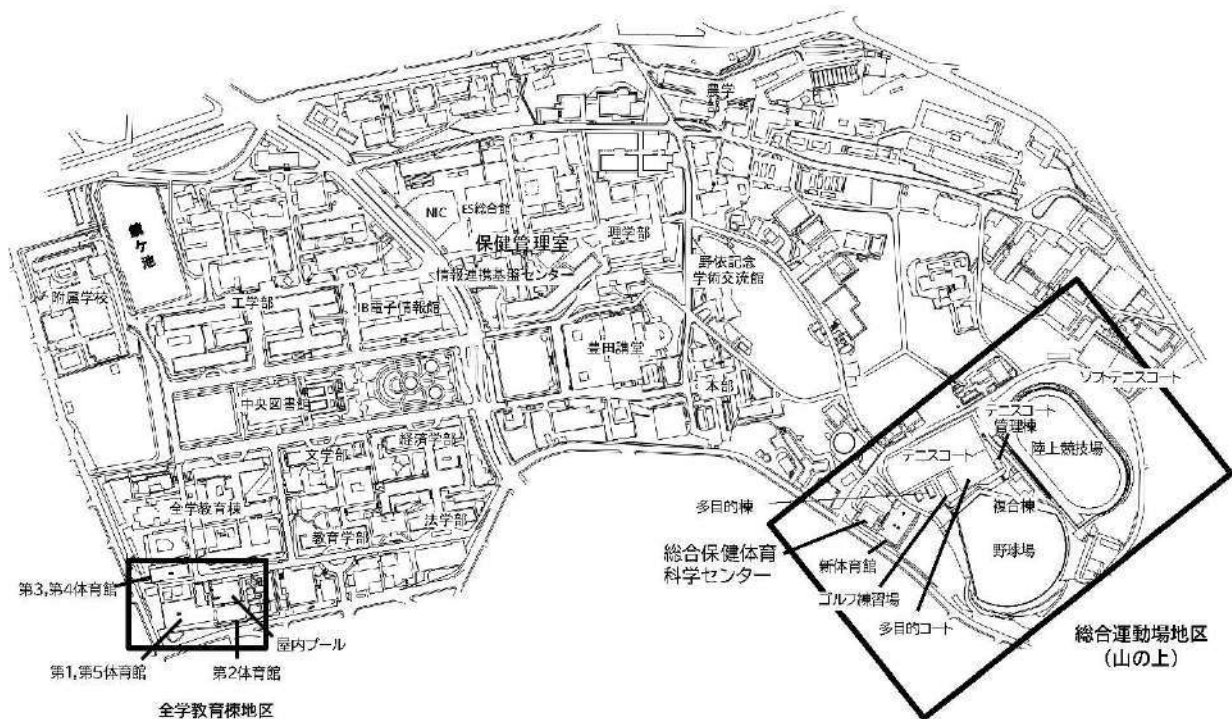
(12) 駐輪場

体育館前には、バイクや自転車の乗り入れや放置はせず、所定の駐輪場・バイク置き場に止めてください。なお、山の上総合運動場地区の野球場、新体育館方面の駐輪場は自転車専用であり、バイクの駐車は厳禁です。陸上競技方面の駐輪場は体育合宿所前にあり、自転車およびバイクが駐車できます。総

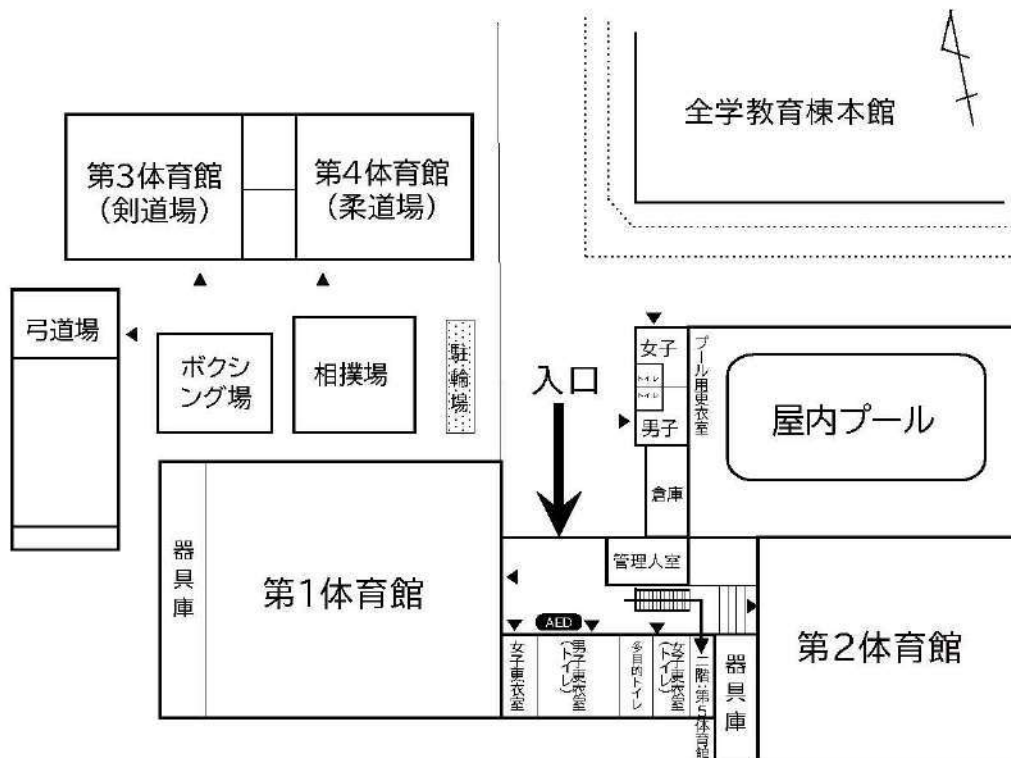
合保健体育科学センター内の駐車場内への自動車，バイク，自転車の乗り入れは厳禁です。

近隣の住民から駐輪・駐車についての苦情が多数届いており，公道への駐輪・駐車は緊急車両や一般車両，歩行者の通行の妨げになります。自転車，バイク，自転車は公道には駐車・駐輪しないでください。駐車・駐輪禁止区域に止めていた場合には移動することがあります。

運動施設配置図



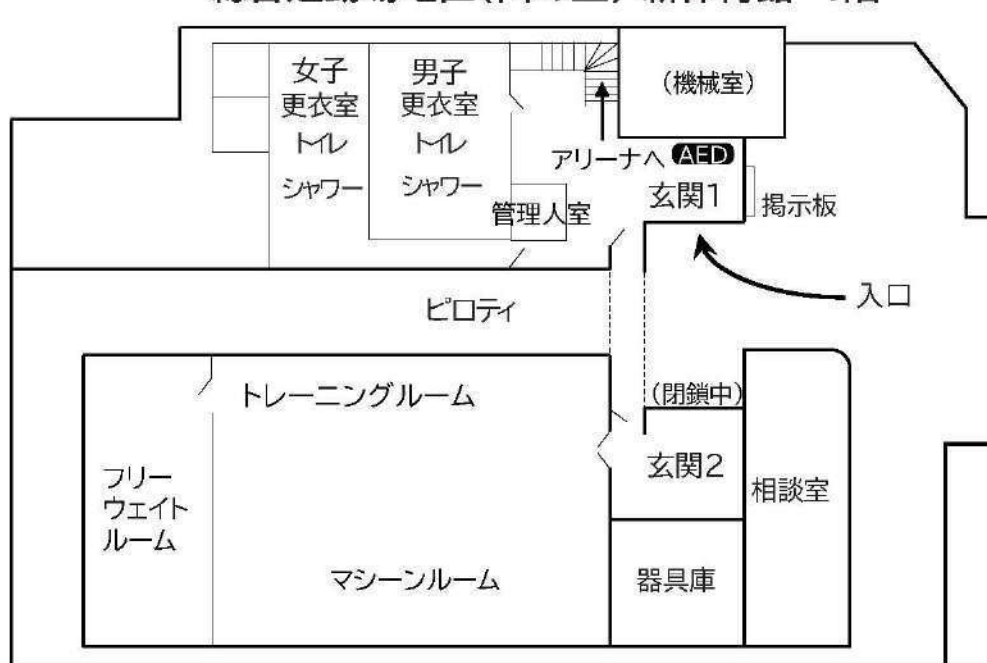
全学教育棟地区 体育館



総合運動場地区(山の上) 運動施設配置図



総合運動場地区(山の上) 新体育館 1階



(4) 文系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目			単位数	備 考
哲学	講	義	2	
歴史学	講	義	2	
文学	講	義	2	
地理学	講	義	2	
社会学	講	義	2	
心理学Ⅰ	講	義	2	
心理学Ⅱ	講	義	2	
教育学	講	義	2	
日本国憲法	講	義	2	★
法学	講	義	2	★
政治学	講	義	2	★
経済学 A	講	義	2	
経済学 B	講	義	2	
経営学	講	義	2	
国際関係論	講	義	2	
国際開発学	講	義	2	
比較文化論	講	義	2	
比較教育論	講	義	2	
統計学	講	義	2	

〔履修に関する注意事項〕

法学部の学生は、★の科目を履修しても卒業要件単位として認められないので、注意してください。

(5) 理系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目			
微分積分学Ⅰ	講義	2	情報学部, 理学部, 工学部, 農学部
微分積分学Ⅱ	講義	2	〃
線形代数学Ⅰ	講義	2	〃
線形代数学Ⅱ	講義	2	〃
複素関数論	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 工学部
数学通論Ⅰ	講義	2	医学部
数学通論Ⅱ	講義	2	〃
数学入門	講義	2	文系学部 (文・教育・法・経済・情報 (人社))
力学Ⅰ	講義	2	工学部
力学Ⅱ	講義	2	〃
電磁気学Ⅰ	講義	2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部
電磁気学Ⅱ	講義	2	〃
物理学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
物理学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部 (物理学科を志望する学生を除く。), 医学部, 農学部
物理学実験	実験	1.5	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
物理学入門	講義	2	文系学部 (文・教育・法・経済・情報 (人社))
化学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 工学部, 農学部
化学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
化学実験	実験	1.5	〃
化学入門	講義	2	文系学部 (文・教育・法・経済・情報 (人社))
生物学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
生物学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部, 農学部
生物学実験	実験	1.5	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (保), 農学部
生物学入門	講義	2	文系学部 (文・教育・法・経済・情報 (人社))
地球科学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 農学部
地球科学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然), 理学部, 農学部
地球科学実験	実験	1.5	〃
地球科学入門	講義	2	文系学部 (文・教育・法・経済・情報 (人社))
情報リテラシー (文系)	講義	2	〃
数学特別講義 (統計学)	講義	2	全学部 (英語による講義)
数学特別講義 (関数解析序論)	講義	2	全学部 (英語による講義)

〔履修に関する注意事項〕

- 対象学部 (学科) 以外の学生が履修しても卒業要件単位として認められないので, 注意してください。
- 医学部保健学科向けの物理学基礎Ⅰ及び化学基礎Ⅰは, 「授業時間割表」等では, 物理学基礎Ⅰ〔総合〕, 化学基礎Ⅰ〔総合〕と表記されていますが, 保健学科の学生はこれらを履修すれば卒業要件単位として認められます。
ただし, 医学部保健学科以外の学生が物理学基礎Ⅰ〔総合〕及び化学基礎Ⅰ〔総合〕を履修しても卒業要件単位として認められませんので注意してください。
- 「力学Ⅰ」または「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」は授業内容が重複しています。したがって, 「力学Ⅰ」または「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。同様に, 「電磁気学Ⅰ」または「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」は授業内容が重複していますので, 「電磁気学Ⅰ」または「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。
- 「数学特別講義」は随意科目であり, 卒業要件単位として認められません。

(6) 文系教養科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
生と死の人間学	講 義	2	2021 年度は開講しない
現代社会の思想的課題	講 義	2	
科学・技術の哲学	講 義	2	
ことばの不思議	講 義	2	
文化を読む	講 義	2	
表象と文化	講 義	2	
芸術と人間	講 義	2	
社会変動と人間生活	講 義	2	
人間と行動	講 義	2	
現代社会と教育	講 義	2	
教育と発達の心理	講 義	2	
現代社会と法	講 義	2	
民主主義の歴史と現在	講 義	2	
市場経済と社会	講 義	2	
産業社会と企業	講 義	2	
金融と生活	講 義	2	
グローバル化時代の国際社会	講 義	2	
開発の光と影	講 義	2	
人間と環境	講 義	2	
社会と環境	講 義	2	
比較報道・放送論	講 義	2	2021 年度は開講しない
グローバル化と国際教育交流	講 義	2	
映像とメディア・リテラシー	講 義	2	

(7) 理系教養科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目			単位数	備 考
図情報とコンピュータ	講	義	2	
情報メディアとコミュニケーション	講	義	2	
システム工学入門	講	義	2	
情報リテラシー（理系）	講	義	2	
情報科学入門	講	義	2	
現代数学への流れ	講	義	2	
先端材料と物性物理	講	義	2	
エレクトロニクスと物性科学	講	義	2	
物理現象の科学	講	義	2	
原子・分子の科学	講	義	2	
物質世界の認識	講	義	2	
物質と材料の科学	講	義	2	
物質と科学	講	義	2	
現代の生命科学	講	義	2	
現代医療と生命科学	講	義	2	
生涯健康と医学	講	義	2	
健康増進科学	講	義	2	
遺伝子の世界	講	義	2	
食と農の科学	講	義	2	
動植物の科学	講	義	2	
微生物の科学	講	義	2	
バイオテクノロジー	講	義	2	
地球惑星の科学	講	義	2	
自然環境と人間	講	義	2	
エネルギーと環境	講	義	2	
自然環境と人間社会	講	義	2	
環境問題と人間	講	義	2	
都市と環境	講	義	2	
大気水圏環境の科学	講	義	2	
宇宙科学	講	義	2	
博物館概論	講	義	2	

(8) 全学教養科目

〔授業科目表〕

			単位数	
現代芸術論	講	義	2	
芸術と人間精神	講	義	2	
表象芸術論	講	義	2	
音楽芸術論	講	義	2	
科学・技術の倫理	講	義	2	
科学技術史	講	義	2	
科学技術社会論	講	義	2	
科学技術とジェンダー	講	義	2	2021 年度は開講しない
宗教と人類文化	講	義	2	
異文化論	講	義	2	
ビッグバンから現代社会まで	講	義	2	2021 年度は開講しない
留学生と日本	講	義	2	
名大の歴史をたどる	講	義	2	
大学でどう学ぶか	講	義	2	
キャリア形成論	講	義	2	
学問の面白さを知る	講	義	2	
大学における環境と安全	講	義	2	2021 年度は開講しない
切迫する自然災害に備える	講	義	2	
アーカイブズ学入門－文書史料の世界をあるく－	講	義	2	
人間関係とコミュニケーション	講	義	2	2021 年度は開講しない
ジェンダーの視点から考える 21 世紀の日本社会	講	義	2	
ピア・カウンセリング	講	義	2	
特別講義 (テレビ報道とメディアリテラシー)	講	義	2	
特別講義 (囲碁の世界)	講	義	2	
特別講義 (社会安全学入門)	講	義	2	
特別講義 (Studium Generale I)	講	義	2	
特別講義 (Studium Generale II)	講	義	2	
特別講義 (欧州現代事情 I)	講	義	2	2021 年度は開講しない
特別講義 (欧州現代事情 II)	講	義	2	
特別講義 (米国現代事情 I)	講	義	2	
特別講義 (米国現代事情 II)	講	義	2	
特別講義 (アジア現代事情 I)	講	義	2	
特別講義 (アジア現代事情 III)	講	義	2	
特別講義 (アジア現代事情 IV)	講	義	2	
特別講義 (日本語教育実践入門)	講	義	2	
特別講義 (青年期を考える－心の健康と将来展望－)	講	義	2	
特別講義 (Summer Camp)	講	義	2	
特別講義 (英語・プレゼンテーション A 1)	講	義	2	
特別講義 (英語・プレゼンテーション A 2)	講	義	2	
特別講義 (英語・プレゼンテーション B 1)	講	義	2	
特別講義 (英語・プレゼンテーション B 2)	講	義	2	
特別講義 (フランス語・アカデミック・ライティング I)	講	義	2	
特別講義 (フランス語・アカデミック・ライティング II)	講	義	2	
特別講義 (PBL マーケティング)	講	義	2	
特別講義 (クリエイティブイノベーション講座)	講	義	2	
特別講義 (プロジェクトマネジメント)	講	義	2	

(9) 開放科目

〔授業科目表〕

ジェンダー学基礎演習Ⅱ	演習	2	文学部	受講制限をすることもある。
中国語学文学基礎演習Ⅱa	演習	2		
中国語学文学基礎演習Ⅱb	演習	2		
音声学講義 a	講義	2		音声学講義 a を履修済であること。
音声学講義 b	講義	2		受講制限をすることもある。(英語による講義、国際プログラム群の学生向けに開放)
近代東アジア史入門	講義	2		
人間発達科学Ⅰ	講義	2	教育学部	受講制限をすることもある。
心理・教育のデータ解析	講義	2		
心理・教育の統計学(心理学統計法)	講義	2		
異文化間教育講義	講義	2		受講制限をする(30名程度、英語による講義)
社会行動学講義Ⅱ	講義	2		
法と政治の思想	講義	2	法学部	受講制限をすることもある。
現代日本の司法	講義	2		
憲法Ⅰ(総論・統治機構)	講義	4		
民法Ⅰ(総論)	講義	4		
西洋法制史	講義	4		
政治学原論	講義	4		
西洋政治思想史	講義	4		
行政学	講義	4		
統計解析	講義	2	経済学部	受講制限をする。(各講義10名程度)
経営Ⅰ	講義	2		
会計Ⅰ	講義	2		
マクロ経済学Ⅰ	講義	2		
政治経済学Ⅰ	講義	2		
一般経済史Ⅰ	講義	2		
ミクロ経済学Ⅰ	講義	2		
数理科学展望Ⅲ	講義	2	理学部	受講制限をすることもある。(英語による講義)
数理科学展望Ⅳ	講義	2		
工学概論第2	講義	1	工学部	受講制限をする。(30名程度)
工学概論第3	講義	2		受講制限をすることもある。(英語による講義)
図学	講義	2		受講制限をする。(10名程度)
電気電子情報先端工学概論	講義	2		受講制限をすることもある。(英語による講義)
化学・生物産業概論	講義	2		
環境土木・建築概論	講義	2		
Agricultural Sciences	講義	2	農学部	受講制限をすることもある。(英語による講義)
国際社会法政ー日本におけるイミグレーションー	講義	2	国際教育	受講制限をする。(学部2年生以上)
現代社会問題への多文化的アプローチ	講義	2	交流セン	受講制限をすることもある。
異文化間能力入門	講義	2	ター	受講制限をする。(20名程度) (第一回目の授業への出席は必須)
				英語による講義 TOEFL PBT523, TOEFL iBT70, IELTS 5, TOEIC730 に 近いまたはそれ以上の 英語力を有するもの。

〔履修に関する注意事項〕

開放科目は、開講部局の学生が履修しても、全学教育科目の卒業要件単位としては認められませんので注意してください。(国際教育交流センター開講の科目を除く)。

2. 開講の目的とねらい

各授業科目の「開講の目的とねらい」については、教養教育院のホームページで確認してください。

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



IX 履修手続と履修

名古屋大学通則、名古屋大学全学教育科目規程及びそれぞれの所属する学部規程に従って、各授業科目を履修する場合には、次のような手続きをする必要があります。(全学教育科目規程第7条参照)

1. 履修手続

各学期の初めまでに、その学期において履修しようとする授業科目（全学教育科目及び各学部が開講する学部科目）を選び、手続きを行ってください。履修登録はWeb（名大ポータル）で行います。詳細については、教養教育院ホームページに掲載する『履修手続きに関する注意事項』で確認してください。

この履修手続きを行わなかった学生は、受講することも、その試験を受ける資格も与えられませんので注意してください。

なお、履修しようとする授業科目によって登録方法、期限や担当教員への受講手続き方法が異なりますので注意してください。

履修手続きはWeb登録をして完了するのではなく、その都度、Web（名大ポータル）履修登録が正しくされているか、履修登録に誤りがないかを確認することで履修手続き完了となります。2回目の履修科目の確認は、その学期に受講する全ての科目が掲載されていますので、万が一、履修登録に誤りがあった場合は、至急担当係（全学教育科目は教養教育院事務室、学部科目は所属学部の教務学生係等）へ相談してください。

2. 受講調整

授業科目の目的や内容を効果のあるものにするため、また、講義室や実験室の収容スペースなどを考慮し、適切な受講者数を決定するため、受講調整を行っています。

受講調整の方法は、以下のとおりです。詳細は『履修手続きに関する注意事項』で確認してください。

- (1) 各授業科目は受講できる対象の学部・学年等が指定されています。指定内の学生を対象に、Web（名大ポータル）で登録した受講希望に基づいて1回目の受講調整を行い、受講科目を決定します。ただし、受講定員等の制限により、必ずしも希望の授業を履修できないこともあります。
- (2) 指定内の学生であれば、受講希望者全員の受講を原則として認める科目もあります。
- (3) 言語文化の一部と健康・スポーツ科学実習については、1回目の授業時に、講義室等で受講調整を行い、受講する科目を決定します。
- (4) 指定外の学生が登録を希望する場合や1回目の受講調整を行っても受講する科目が決定しなかった学生が登録を希望する場合等には、授業時に講義室等で受講調整が行われる科目もあります。
- (5) 受講調整結果や履修登録がなされたかの確認は、Web（名大ポータル）『履修科目の確認』で行います。

※受講希望に基づいて受講調整を行い、受講科目を決定しますので、受講する意志のない科目をWeb（名大ポータル）に登録することのないように注意してください。闇雲に受講希望を記載することは、他の学生の迷惑となりますので、十分注意してください。

3. 履修

- (1) 授業には毎回出席することが原則です。
欠席回数が多い場合は、学期の途中でも受講の許可が取り消されることがあります。また、試験を受ける資格が与えられないことがありますので、注意してください。
- (2) 教室外における自学自習の状態を評価する方法は、担当教員によって異なります。
たとえ授業には常に出席していても、教室外の自学自習に欠けることがあれば、(1)と同様の処置がとられることもありますので、注意してください。

4. 重複履修科目の単位

- (1) 原則として、同一科目を2科目以上履修し試験に合格しても、卒業要件単位としてはそのうち1科目しか認められません。

- (2) 言語文化については、同一科目であっても複数個が卒業要件単位として認められるものがあります。ただし、履修上の制限がありますので、各言語の〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。
- (3) 理系基礎科目において、開講対象学部等以外の科目を履修し試験に合格しても、卒業要件単位として認められないことがありますので、〔授業科目表〕及び〔履修に関する注意事項〕を確認の上、受講してください。

5. 再履修・単位の補充

試験等の結果、「F」または「W」となった授業科目については、各学部が定める進級基準または卒業に必要な単位を修得するため、当該科目を再履修し、不足する単位を補充する必要があります。

不足する単位は、下位年次生対象の授業を受講するか、または他学部・他クラスの授業を履修することで単位を補充することができる場合もありますので、必ず所属学部の教務学生係等を確認してください。

ただし、再履修する場合は、他に履修しなければならない授業科目と曜日時限が重複することが多く、困難が伴うことを覚悟しなければなりません。詳細の方法は、『履修手続きに関する注意事項』で確認してください。

X 試験と成績

1. 試験

全学教育科目（開放科目を除く）の試験に関する一般的な注意事項は、次のとおりです。

- (1) 原則として、各学期末に学期末試験を行います。
- (2) 試験は、筆記試験を原則としますが、筆記試験の代わりに、レポート提出、口述試験、実験報告などによることもあります。
- (3) 試験を受ける際は、机上に学生証を提示しなければなりません。
- (4) 試験の際、20 分以上遅刻すると、試験室に入ることが許可されません。
受験している試験室からの退出が許可されるのは、試験開始後 30 分以上経過してからです。ただし、試験終了前の 5 分間は、退出が許可されません。
なお、退出した場合は、他の受験者の迷惑にならないよう静粛にしてください。
- (5) 試験時間は、すべて標準電気時計またはそれに合わせた監督者の時計によります。
- (6) 試験の際、不正行為を行ってははいけません。
万一、不正行為のあったときは、教養教育院の議を経て、所属する学部長に通知するものとし、各学部の教授会は、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」により、何らかの措置（当該学生の当該学期に認定される全授業科目の単位をすべて無効とする等）を決定します。
- (7) 開放科目の試験については、開講学部等の指示に従ってください。

2. 追試験

追試験とは、傷病、その他やむを得ない理由によって、学期末試験の一部ないし全部を受験できなかった者に対して行われる試験のことを言います。追試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

- (1) 追試験を希望する者は、教養教育院長に願い出て、その許可を得なければなりません。
このため、追試験受験願に、追試験を希望するすべての授業科目について、所定の事項を記入し、
 - ① 傷病の場合は、医師の診断書 1 通
 - ② その他の場合は、理由書とそれを証明できる書類 1 通追試験受験願と①または②は、教養教育院事務室にそれぞれ提出してください。
- (2) 追試験受験願に不備がなく、審査の結果、その理由が正当と認められた場合に限り受験が許可されます。
- (3) 追試験受験願の提出期限及び追試験の期日・時間・試験室は、教養教育院事務室の窓口または掲示で発表します。
- (4) 追試験を受験できなかった場合の追々試験は実施しません。

3. 再試験

再試験とは、別表 1 及び別表 2 に掲げる科目を受講し、その期の学期末試験または追試験を受け、その成績が「F 又は NP」となった者のうち、一定の要件を満たした者に対し、再度行われる試験のことを言います。再試験に合格した場合には、その期の成績として認定されます。

再試験の実施時期は、9 月または 3 月です。科目によって実施時期が異なりますので、注意してください。

再試験は、成績が合格に達しなかった者に対し再度受験の機会を与えることにより、学生の履修上の便宜を図るものです。受講の実態の無い者や試験を欠席した者は、受験資格はありません。

- (1) 再試験を受験できる者は、~~次の各号に該当する者で、再試験実施授業科目の成績が「F 又は NP」となった者で、教養教育院が定める要件を満たす場合とし、対象者は名大ポータル~~の教養教育院ページにて発表します。
~~i) 再試験実施授業科目の成績が「F」であった者で、ただし、8 ページにおける標準的な方法によらない場合は、授業担当教員が指定する点の者。~~
~~ii) 授業科目によっては、必要に応じて定めた要件を満たした者。~~
再試験を受けようとする者は、指定の期日までに所定の手続きを行ってください。手続きについては名大ポータル~~の教養教育院ページにて発表します。~~

- (2) 再試験の期日・時間・試験室は、名大ポータルの教養教育院ページにて発表します。
- (3) 再試験の時間は、50 分または 90 分です。**(科目によっては授業担当教員が決定します。)**
- (4) 再試験の成績評価は「C-」または「F」、もしくは「P」または「NP」で、「C-」または「P」は再試験を実施した期の単位として認定されます。
- (5) 再試験を受験できなかった場合の追試験は、実施しません。
- (6) 再々試験は、実施しません。

別表 1 (学期末試験が行われた期に再試験を実施する科目【当該期再試験該当科目】)

目 理 系 基 礎 科	物 理 学 系	力学Ⅰ, 力学Ⅱ, 電磁気学Ⅰ, 電磁気学Ⅱ, 物理学基礎Ⅰ, 物理学基礎Ⅱ
	化 学 系	化学基礎Ⅰ, 化学基礎Ⅱ
	生 物 学 系	生物学基礎Ⅰ, 生物学基礎Ⅱ
	地 球 科 学 系	地球科学基礎Ⅰ, 地球科学基礎Ⅱ

別表 2 (学期末試験が行われた期の次期に再試験を実施する科目【次期再試験該当科目】)

言語文化Ⅰ	英語 (サバイバル) 注
-------	--------------

注 英語 (サバイバル) は、再試験に代えて合格認定試験を行うものとする。

4. 不正行為について

授業・試験等における不正行為は断じて許されることではありません。授業の際の小テスト、レポート及び学期末試験等における不正行為を絶対行わないでください。万一不正行為があった場合は、事実関係を調査したうえで、「名古屋大学学生の懲戒等に関する規程」に基づき、措置され、退学・停学・訓告処分が科せられることがあります。また、当該科目に止まらず、当該学期において修得した全授業科目の単位が不認定となり、事実上留年になります。

不正行為は期末試験、レポート提出期限、成果発表などの日が迫っているのに準備が追いついていない場合に起こしやすいとされています。良い成績を取りたい、単位を落としたくないといった気持ちが先走り、いわゆるコピペやカンニングに走ったり、不完全な引用・参照が行われたりするのです。不正行為は、学生としての本分に反する行為であり、不正行為によって多大な不利益を被るのは自分自身であることをよく認識し、以下のことを心掛けたうえで授業や試験に臨んでください。

- ・試験時は答案作成に許可されたもの以外は、机上・机中や椅子上に置かず、かばんの中に入れ、かばんは口を閉めて足下等に置くこと。
- ・ウェアラブル端末、下敷きは使用しないこと。
- ・携帯電話・スマートフォンは電源を切り、かばんの中に入れること。
- ・レポート等の作成に際して、インターネット等からのコピー&ペーストや他人の著作物の盗用を行わないこと。
- ・調査・実験等において各種データの捏造・改ざんを行わないこと。

盗 用：他人の研究内容又は文章を適切な手続きを経ることなしに流用すること

捏 造：データ又は実験結果を偽造すること

改ざん：研究試料・機材・研究過程に操作を加え、又はデータ若しくは研究成果を変え、若しくは省略することにより研究内容を正しく表現しないこと

引用：「良識をもって学問をしよう！」高等教育研究センター
(<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/support/file/integrity.pdf>)

5. 成績評価

- (1) 全学教育科目の単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験のほか、授業の履修状況等を踏まえ、総合的に成績を評価し、合格した者には、所定の単位が与えられます。

- (2) 成績評価は、「A+」、「A」、「B」、「C」、「C-」、「F」の6段階で表記されます。なお、「A+」、「A」、「B」、「C」及び「C-」は合格で、所定の単位が与えられます。
これを「単位の修得」といいます。「F」は不合格で、単位は与えられません。
ただし、この区分による成績認定が不可能な科目に関しては、P・NPの2区分となります。
- (3) 成績評価が「F」であった者のうち、次の各号に該当する者は、再試験の対象となります。
i) 再試験実施授業科目の成績が総合評価で59点～40点の者。
ただし、8ページにおける標準的な方法によらない場合は、授業担当教員が指定する点の者。
ii) 再試験実施授業科目によっては、必要に応じて定めた要件を満たした者。
- (4) 毎学期の成績は、春学期分は8月下旬、秋学期分は2月下旬に、Web（名大ポータル）「修得科目確認（成績照会）」メニューで確認してください。
- (5) 「修得科目確認（成績照会）」メニューには、学期ごとに授業科目名・担当教員名・成績・単位数が掲載されます。一度修得した授業科目の成績・単位は、これを取り消したり、以後の修得によって変更したりすることはできません。
- (6) 「修得科目確認（成績照会）」により、全学教育科目の成績評価について疑義がある場合は、成績が発表された日から原則3日以内（成績発表日を含む）に、教養教育院事務室へ「成績評価照会票」を提出してください。手続方法は、教養教育院ホームページに掲載しますので、NUCTから「成績評価照会票」を提出してください。

6. GPA 制度の導入と成績評価（「W」と「F」）の扱いについて

本学では、「A+」、「A」、「B」、「C」、「C-」、「F」の6段階評価に基づくGPA制度を導入しています。GPA制度のもとでは、「F」はGPA算出の際に0点として算入され、GPAの数値を低下させますが、「W」はGPAには算入されず、影響はありません。したがって、GPAの観点からは、成績評価が「F」であるか「W」であるかは、大きな違いとなります。

そのため、本学では履修取り下げ制度を導入しています。これは、履修登録済の科目について教員の指定した方法で、履修・単位取得の意思はないということを教員に伝えるものです。履修取り下げの意思が示された場合、当該授業科目は「W」になります。

シラバスはこの制度の運用を前提にして作成されています。履修人数など授業のさまざまな条件により、いくつかの記載の可能性がありますので、履修取り下げの意思が生じた場合、以下に従ってその意思を明確に教員に伝えてください。不明の点は、必ず教員に確認してください。

- (1) シラバスに「**学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げを申し出る必要がある**」と記載されている場合

履修取り下げは、履修科目のNUCT講義サイトを通じて授業担当教員へ申し出てください。申し出の期限は、授業担当教員に確認してください。

あらかじめ教員が定めた期限までに「履修取り下げ」の申し出がない場合は、学期末試験の欠席、レポートの未提出、講義・演習・実験などへの出席日数の不足の場合でも、学期末試験（レポートを含む）の不合格の場合と同じく、成績判定は「F」となります。原則として、「履修取り下げ」の申し出をしなかった学生に対して「W」の成績判定は行えません。ただし、病気、事故、不登校等の事由で「履修取り下げ」の申し出がない（できない）等の事情のある場合の成績評価については、担当教員の判断で「W」とすることがあります。

「履修取り下げ」の申し出がされた場合は、成績評価は「W」となります。

- (2) シラバスに「**履修取り下げにあたり、履修取り下げの申し出を必要としない**」と記載されている場合

履修者がきわめて多数であるため、「履修取り下げ」の申し出の授受、管理等に困難があるなどの場合、「履修取り下げ」の申し出を条件とせず、学期末試験の欠席、レポートの未提出等の場合の成績判定を、（「F」ではなく）「W」とすることがあります。この場合、シラバスの「成績評価の方法」において、中間テスト、レポート、出席点の扱いなど、どのような場合に「W」評価となるかについて、記述されているはずです。または、講義のイントロダクションなどにおいて、「学期末試験を受験しなかった場合の評価は『W』とする」、「レポートの未提出や出席日数が不足する場合、学期末試

験を受験しても『F』となることがある」等「成績評価の方法」、つまり「W」と「F」の基準についての具体的な指導がなされることになっています。

そのような記載や指導がなく、履修を取り下げたい場合、成績評価の方法について授業担当教員に確認の上、指示に従ってください。

(3) シラバスに「学期途中で履修の取りやめを希望する場合は、担当教員の許可を必要とする」等と記載されている場合

セミナー等で個々の学生に役割分担が与えられる場合など、履修の安易な取り下げが授業全体の実施に支障をきたす場合も考えられます。

その場合、「履修を取りやめる場合は、担当教員の許可を必要とします」などの記載がシラバスになされているはずです。このとき、事情によりどうしても履修の取りやめを希望する場合は、担当教員に相談し、その指示に従ってください。

その結果、履修取り下げが認められた場合、成績評価は「W」となります。なお、病気、事故、不登校などの事由で、「履修取り下げ届」の提出がない（できない）等の事情がある場合の成績評価については、担当教員の判断で「W」とすることがあります。

履修取り下げの申し出期日は、春学期は5月末、秋学期は11月末を目安としておりますが、授業の事情により異なる場合がありますので、必ず担当教員に提出期間を確認してください。

※学部科目については、所属学部の教務担当係で確認してください。なお、学部ごとに履修取り下げ制度の内容が異なるので注意してください。

7. 既修得単位の認定

他の大学を卒業または退学し、新たに本学の1年次に入学した場合は、入学前に修得した科目及び単位について、本学で修得した単位として認定することがあります。

この認定は、個々の学生ごとに行われ、認定にかかる科目区分ごとの授業科目及び単位数は、各学部により異なりますのでそれぞれの所属学部の学生便覧を参照してください。

既修得単位の認定の申し出は、入学手続後、所属学部の指示に従い、所定の手続きをしてください。

なお、この申し出に際しては、以下の書類が必要となりますので、予め手元に取り寄せ、速やかに提出できるよう用意しておいてください。

〔提出を要する書類〕

- ①入学前に単位を修得した大学の成績証明書及び卒業または退学証明書
- ②卒業または退学した大学の「授業要覧」等

〔提出先〕

所属学部の教務学生係（文系学部は文系教務課各学部グループ、工学部は教務課教務係、医学部医学科は学務係）

XI 自然災害等に伴う授業及び学期末試験の取扱い

台風等または地震による災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがあり警報等の情報が発表された場合の全学教育科目の授業及び学期末試験（追試験及び再試験を含む。以降「授業等」という。）の対応は次のとおりです。

1. 台風等に伴い、名古屋市に暴風警報が発表された場合

台風等に伴い名古屋市に暴風警報が発表された場合は、暴風警報発表後に開始される授業等は休講となります。ただし、暴風警報が解除された場合の授業等の実施については、別表のとおりです。

別表「暴風警報の解除後の授業の実施」

警報解除時刻	授業等開始時限
6：45 まで	第 1 限
以後 11：00 まで	第 3 限

〔注意事項等〕

- (1) 暴風警報が発表された際、既に大学に登校している場合は経路の安全を確認し、危険な状況になる前に帰宅してください。
- (2) 登校途中に暴風警報が発表された場合は、登校せず、帰宅してください。
- (3) 名古屋市内に特別警報が発表された場合は、その種別によらず、暴風警報と同じ対応とします。
- (4) ICT による遠隔授業等は原則として休講になりません。この場合は講義のホームページや NUCT 等開講状況を確認してください。

2. 地震・火災が発生した場合

授業等の実施中に地震等が発生した時は、地震等の規模や周りの状況を冷静に判断し、まず身の安全を図ってください。

その後、授業等を速やかに中断し、授業担当教員の指示に従って、指定された一次避難場所へ避難してください。避難後は、大学（教養教育院）の指示に従ってください。

3. 南海トラフ地震に関連する情報が発表された場合

2019 年 5 月 31 日から「南海トラフ地震に関連する情報」が発表されることになりました。この情報が発表された場合の対応は、国や地方自治体でも検討中ですが、授業の実施や帰宅などについては大学の指示に従って行動し、あわせて各自で情報収集に努めて安全を確保してください。なお、対応方針については今後追加・変更される可能性がありますので、注意してください。

4. その他、災害が発生した場合、もしくは発生のおそれがある場合

上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると判断されるときは、教養教育院において休講措置等の情報をホームページ及び掲示等により通知します。

5. 代替措置

上記により中止となった場合の授業等の代替措置実施期日は、掲示等により通知します。

XII 学生への情報連絡の手段等

学生のみなさんへの各種通知・連絡・案内等の連絡手段は次のとおりです。見落としのないよう確認する習慣を身につけてください。

1. 掲示板

全学教育棟本館 1 階服部国際奨学財団ホール（学生ホール）の掲示板では、次の情報をお知らせします。

- 1) 全学教育科目の履修に関すること
- 2) 全学教育科目の緊急の休講・補講連絡
- 3) 全学教育科目の講義室の変更
- 4) 全学教育科目のレポート・試験に関すること
- 5) 授業料免除・奨学金に関すること
- 6) その他全学教育科目・授業、教養教育院からの重要なお知らせ

2. 教養教育院ホームページ (<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/>)

教養教育院から、次の情報をお知らせします。

- 1) 全学教育科目履修の手引、全学教育科目時間割、履修手続きに関する注意事項の掲載
- 2) 授業実施に関わること
- 3) 教養教育院について（設立、構成など）
- 4) 成績疑義照会手続きに関すること
- 5) その他全学教育科目・授業、教養教育院からの重要なお知らせ

3. 名古屋大学ポータル

履修登録・確認、成績確認、シラバス閲覧等を行うことができ、さらに教養教育院から各種お知らせをします。

- 1) 教務システムの履修登録・履修確認・成績確認
- 2) シラバス閲覧
- 3) 教養教育院からの各種通知（全学教育科目の履修関係、学期末試験、追試験、再試験、検定試験による単位認定、その他重要なお知らせ等）

【名古屋大学ポータル】

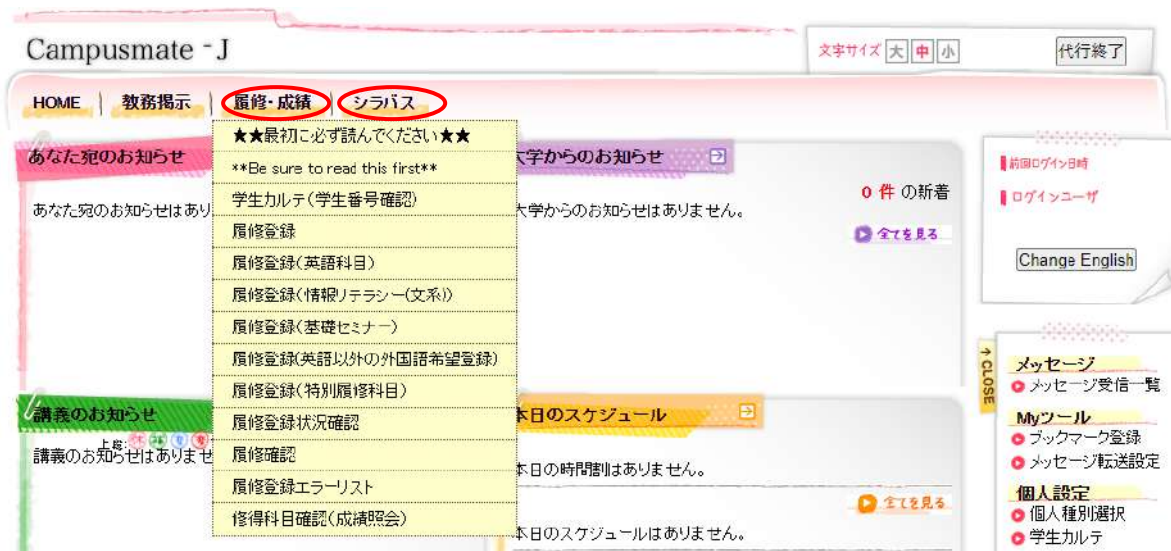
- ①名古屋大学ホームページの下部にある「名古屋大学ポータル」をクリック



- ② トップ画面から名古屋大学ポータルにログイン
(名古屋大学 ID とパスワードを入力し、「ログイン」をクリック)



- ③ 「教養教育院」をクリックして、教養教育院からのお知らせ、学生メニュー等を確認する。
「学務」→「履修・成績」をクリックして、履修登録・履修確認・成績確認、シラバス閲覧をする。



4. 名古屋大学 ID と NUCT

学内の各種情報サービスは、名古屋大学 ID を使用します。ID を入手後、「新入生情報セキュリティ研修」を受講し、合格することで利用が可能となります。合格しない場合、学部生は履修登録ができません。

個別の授業の案内は教育学習支援システム NUCT*を中心に行います。

*教育学習支援システム NUCT (Nagoya University Collaboration and course Tools) は、インターネット上で授業運営 (授業の連絡、教材の閲覧、課題の指示、レポート提出等) を行うシステムです。

<https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal>

5. 休講・補講の連絡

休講・補講の連絡について、原則、各授業担当教員から、NUCT 講義サイトを通じてお知らせします。

6. 名古屋大学教養教育院の公式 Twitter

この公式 Twitter は教養教育院から情報発信を行うことを目的としています。質問に対しての返信等はありませんので、質問等がある場合は、教養教育院事務室の窓口まで直接申し出てください。

アカウント名：@NagoyaUniv_ilas https://twitter.com/NagoyaUniv_ilas

教養教育院の公式 Twitter では、次の情報をお知らせしています。

- 1) 全学教育科目に関する情報
- 2) 自然災害に伴う授業及び学期末期試験の取扱いに関する情報
- 3) 主に学部1，2年生が対象となる説明会等の案内情報
- 4) 緊急時における情報



1. 名古屋大学における言語文化教育

言語文化教育は、コミュニケーションツール、リサーチツールとして活用することが可能となるよう言語教育の有効性と効率化を図るとともに、異文化理解と異文化との共生の素養を培うことにより、国際感覚を備えた人材を養成することを目標としています。また、英語では、国際基準の英語力を育成し、学術論文の読解力と論文執筆能力、さらに、聴解と会話を含めたプレゼンテーション能力を養成することを目指しています。本学の言語文化教育の特色は次のとおりです。

① 少人数教育

英語では、「英語（サバイバル）」、「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（上級リーディング）」は40名規模、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」は20名規模、「英語（セミナー）」は25名規模、英語以外の外国語は30名規模でクラス編成をし、高い教育効果をめざしたきめ細かな教育を実施しています。

② 生きた外国語教育

外国語母語話者を積極的に任用し、フェイストゥフェイスで生きた外国語に接しうるよう環境整備をはかっています。

③ 多様な外国語教育

英語以外の外国語科目として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語、日本語（外国人留学生向け）、古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語、ポルトガル語、ベトナム語の授業を開講し、学生が、世界の多様な言語と文化に接することができるよう配慮しています。

④ 習熟度別コース編成、段階別クラス編成

英語では、入学時に実施されるプレイスメント・テストにより、A、Pre-A、B、Cコースの習熟度別コース編成を行っています。また、学生は、「英語（サバイバル）」（Cコースのみ）、「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（コミュニケーション）」等の授業を段階別に受講します。

⑤ 検定試験の活用

英語では、入学時と1年秋学期にTOEFLITP及びライティング能力を測るCriterion試験の一斉受験を行います。

また、英語及び英語以外の外国語の検定試験の結果によって、単位を認定する「検定試験による単位認定制度」を設けています。

⑥ eラーニング教材の活用

英語では、課外学習として、また、一部授業では授業内において、eラーニング教材を活用し、学習量の増加をはかるとともに、自律的な学習習慣を育てています。

2. 外国語の履修について

① 全学基礎科目・言語文化（外国語）の概略

名古屋大学では、外国語の授業は全学教育科目の中の一区分である「全学基礎科目・言語文化」として開講しています。

全学基礎科目・言語文化は、「言語文化Ⅰ」、「言語文化Ⅱ」、「言語文化Ⅲ」の3種類に分かれています。

言語文化Ⅰに配置されている授業科目の言語は、その履修が卒業要件に係る、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語及び日本語（対象は外国人留学生）です。また、言語文化Ⅱに配置されている授業科目の言語には、上記の言語のほかに、古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語、ポルトガル語、ベトナム語があります。

授業時間割のⅠ期からⅣ期までの「学部指定オビ」（指定時間帯）には、卒業に必要な単位が修得できるように授業が配置されていますが、「学部指定オビ以外」にも自由に選択履修できるように上記の言語の授業が提供されています。

② 「英語（基礎）」の履修手続き

「英語（基礎）」の授業は、入学時のプレイスメント・テストの結果により、Aコース、Pre-Aコース、Bコース、Cコースに分かれて受講します。

「英語（基礎）」の受講可能人数は原則1クラス40名です。

受講する授業は、プレイスメント・テストの結果をもとに受講調整を行い、決定されます。

受講調整の結果については、4月16日（金）に名大ポータル「教養教育院」ページに掲載します。決定された授業からの変更はできません。

また、「英語（基礎）」の受講調整結果とともに、「英語（サバイバル）」の受講者と受講クラスも名大ポータル「教養教育院」ページに掲載します。

「英語（サバイバル）」はプレイスメント・テストでCコースとなった学生だけが受講する授業です。この授業は選択制ではなく、該当学生を学生番号順に各授業に振り分けます。新入生の皆さんは全員、4月16日（金）に、全学教育棟本館1階服部国際奨学財団ホール（学生ホール）掲示板で、自分が「英語（サバイバル）」の授業を受講する必要があるか、また、受講する必要がある場合は、どのクラスに入るかを確認してください。

以上をまとめますと、次のようになります。

（1）4月4日（日）にTOEFL ITP試験又はCriterion試験を受験（全員）。

（2）4月6日（火）にTOEFL ITP試験又はCriterion試験を受験（全員）。

（3）4月16日（金）に公表される、「英語（基礎）」の受講クラスを確認。

（4）同じく、4月16日（金）に「英語（サバイバル）」の受講者及び受講クラス公表です。（全員が確認。ただし、授業はCコースの学生のみ）

受講する授業が決まったら、生協等で教科書の購入をしてください。なお、1年生の英語の授業だけは、第2週目の4月19日（月）から始まります。

③ 卒業に必要な英語以外の外国語について

卒業に必要な英語以外の外国語としてドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語及び日本語（対象は外国人留学生）から1言語を選択し履修しなければなりません。Ⅰ期からどの言語を履修するか、その選択については、4月3日（土）に各学部等で行われる履修ガイダンスでの説明、各言語を紹介するウェブサイト「名古屋大学教養教育院言語文化科目」<http://lang.ilas.nagoya-u.ac.jp>の記載及び本冊子の「Ⅴ 卒業・進級のために修得すべき授業科目・単位」並びに「Ⅵ 授業時間割と履修計画」の「3. 学部別「言語文化」履修の指針」をよく読んで、慎重に希望順位を決定してください。

ただし、各言語に開設されるクラス数に限りがあり、希望どおりの履修ができるとは限らないので、4月3日（土）新入生履修ガイダンス終了後から4月4日（日）までにそれぞれの言語に希望順位をつけてWeb（名大ポータル）で履修登録を行ってください。

また、Ⅰ期に履修した言語とは別の言語をⅡ期から履修することもできますが、学部指定オビではなく学部指定オビ以外（Ⅱ期とⅢ期の5限目）に開講されているクラスを履修することとなりますので注意が必要です。詳細については、「Ⅷ 各授業科目」の「1. 授業科目表及び履修に関する注意事項（2）言語文化」を参照してください。

④ 英語以外の外国語（外国人留学生用日本語を含む）の履修手続き

卒業に必要な英語以外の外国語として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語から、それぞれの言語について第1希望から第6希望をWeb（名大ポータル）の「英語以外の外国語」メニューから登録してください。

なお、外国人留学生は、Web（名大ポータル）の「日本語」メニューから日本語を選択することができます。教育学部、法学部及び経済学部においては日本語は必修となっています。

3. 全学基礎科目（言語文化）：各言語の案内

各言語を紹介するホームページ「名古屋大学教養教育院言語文化科目」<http://lang.ilas.nagoya-u.ac.jp>（または「名古屋大学言語文化科目」で検索）を参照してください。



4. 東海国立大学機構設置による新たな取組

国立大学法人名古屋大学と同岐阜大学は、2020年4月から法人統合により東海国立大学機構（以下「機構」という。）の元に設置されることになりました。（詳細は、<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/tokai-system/index.html> で確認してください。）

教育分野においては、名古屋大学と岐阜大学との間で共同できる取組を進める組織として「アカデミック・セントラル」を設け、国際通用性のある質の高い教育を実践し、東海地域をはじめ、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなりうる人材を育成することを目指します。当面の取組として、リベラル・アーツ教育のより一層の充実、ICTなどの新しい技術を活用した次世代型教育の導入を進めています。

教養教育院では、遠隔講義システムを活用した授業や学外で行う授業などにおいて、両大学の学生が共に参加して行う授業を提供します。また、「健康・スポーツ科学実習」のスキーや全学教養科目「特別講義（Summer Camp）」、「特別講義（Studium Generale I, II）」を両大学で共同実施することとしております。

さらに、海外短期研修プログラム（言語文化Ⅲ）等特色ある科目を共同実施していくことも予定しております。

「健康・スポーツ科学実習Ⅱ（スキー）」

スキーの技術習得を通じて冬の自然に親しむとともに、雪上を自由に滑走できるためのスキルを身につけること、および、生涯スポーツの一つとして卒業後も楽しむことができるための基礎づくりをすることを目的とします。さらに合宿生活を通じて学生間のコミュニケーションを図ることや集団生活におけるルールやマナー遵守を実践することも目的の一つです。

「特別講義（Summer Camp）」

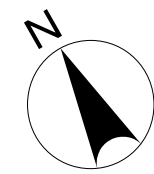
夏休み（9月）に集中講義として実施します。留学生と日本人学生、学部生と大学院生、名古屋大学学生と岐阜大学学生が、英語だけを使って3泊の合宿をともに体験します。年齢、国籍、所属大学、専門分野を超えたグループをつくって、さまざまな活動に取り組むことを通じて、論理的思考力、コミュニケーション力、チームビルディングに必要なスキルを身につけ、自主学習への意欲と国際性を涵養します。

「特別講義（Studium Generale I, II）」

ヨーロッパで800年の伝統を持つ「開かれた大学」の理念に基づいた講義を英語で体験してもらうことが狙いです。学内留学の気分が味わえます。毎回異なったトピックについて学内外からの講師が講義します。

5. 全学教育棟などの講義室配置図

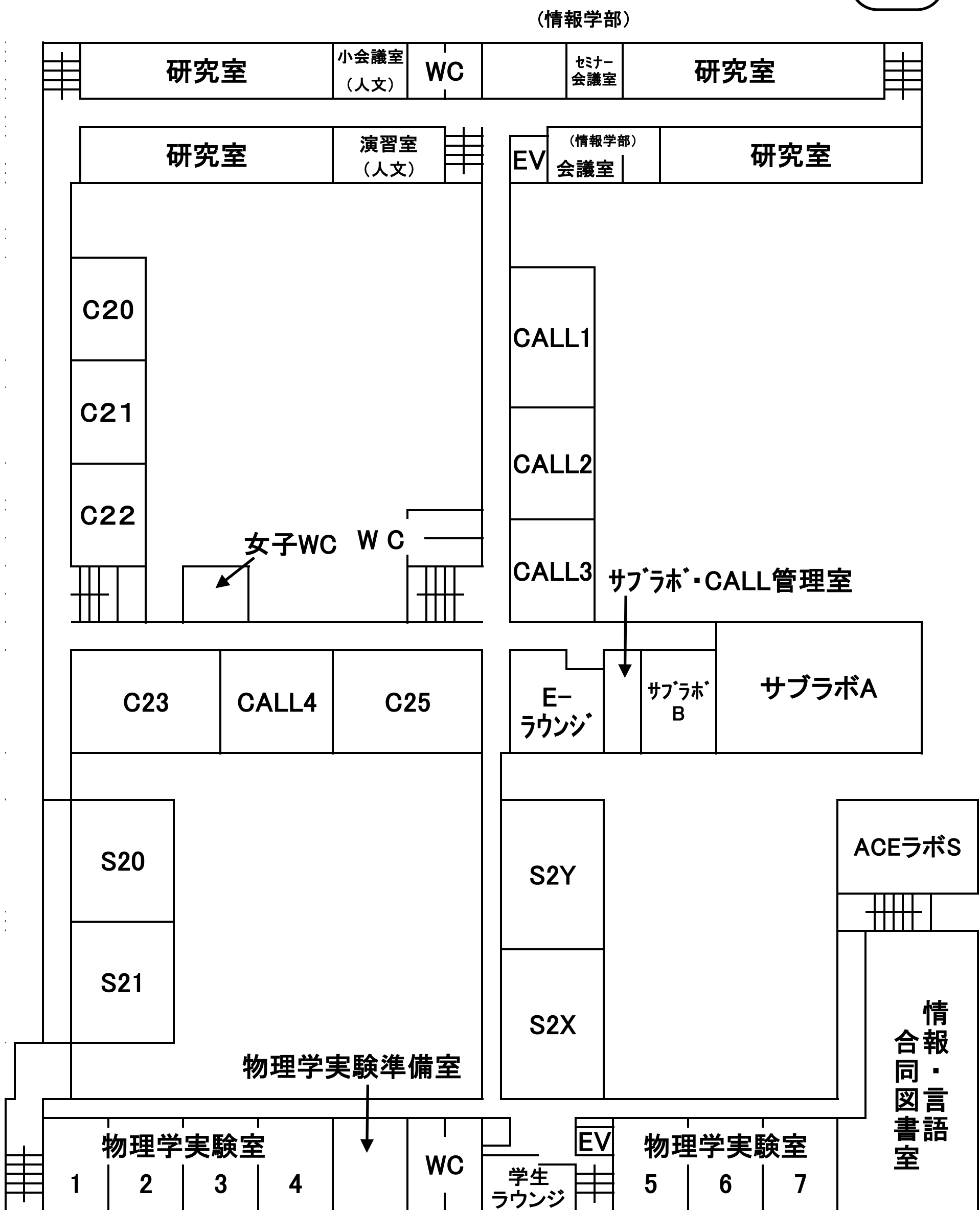
＜全学教育棟本館（情報学部）＞



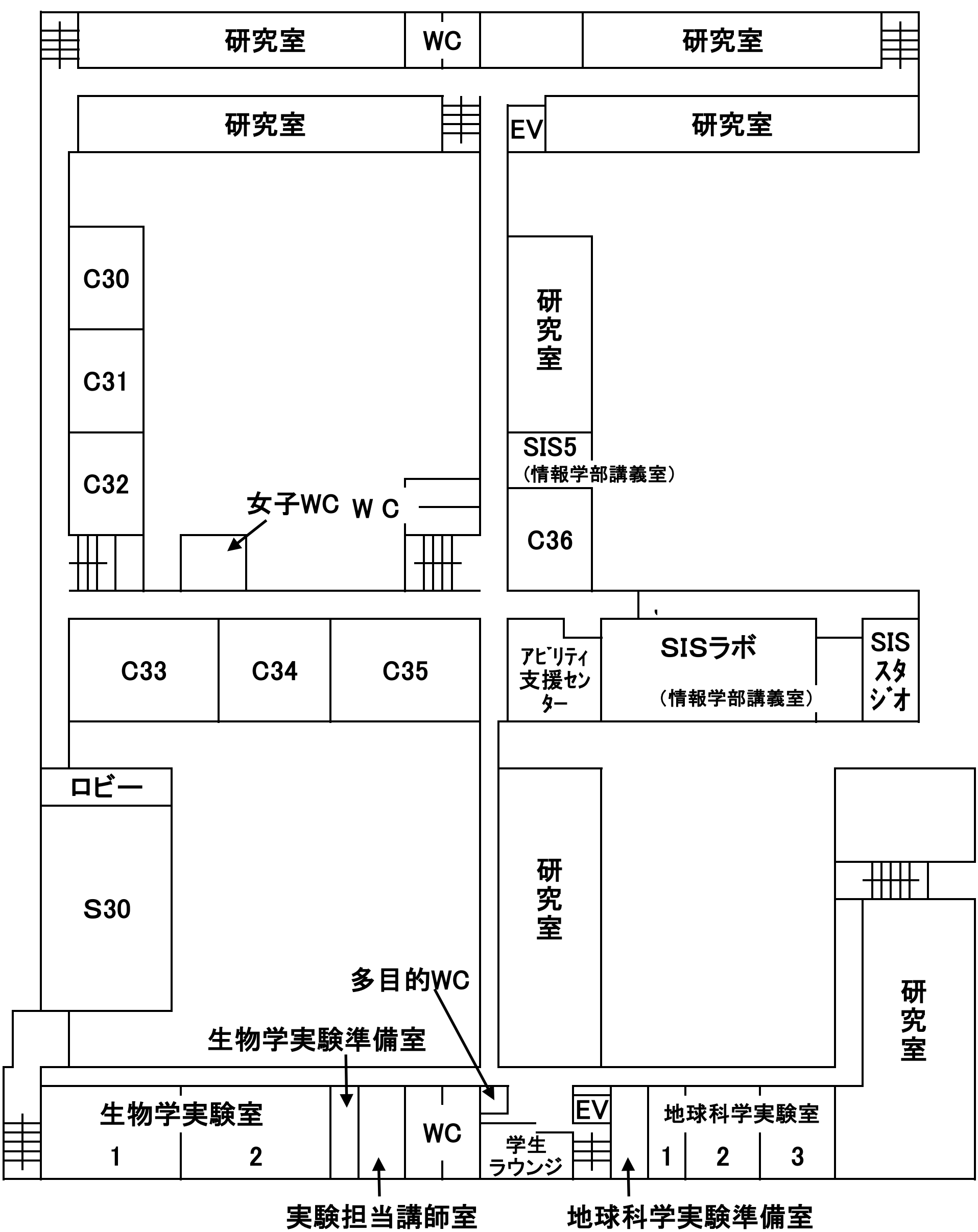
1階



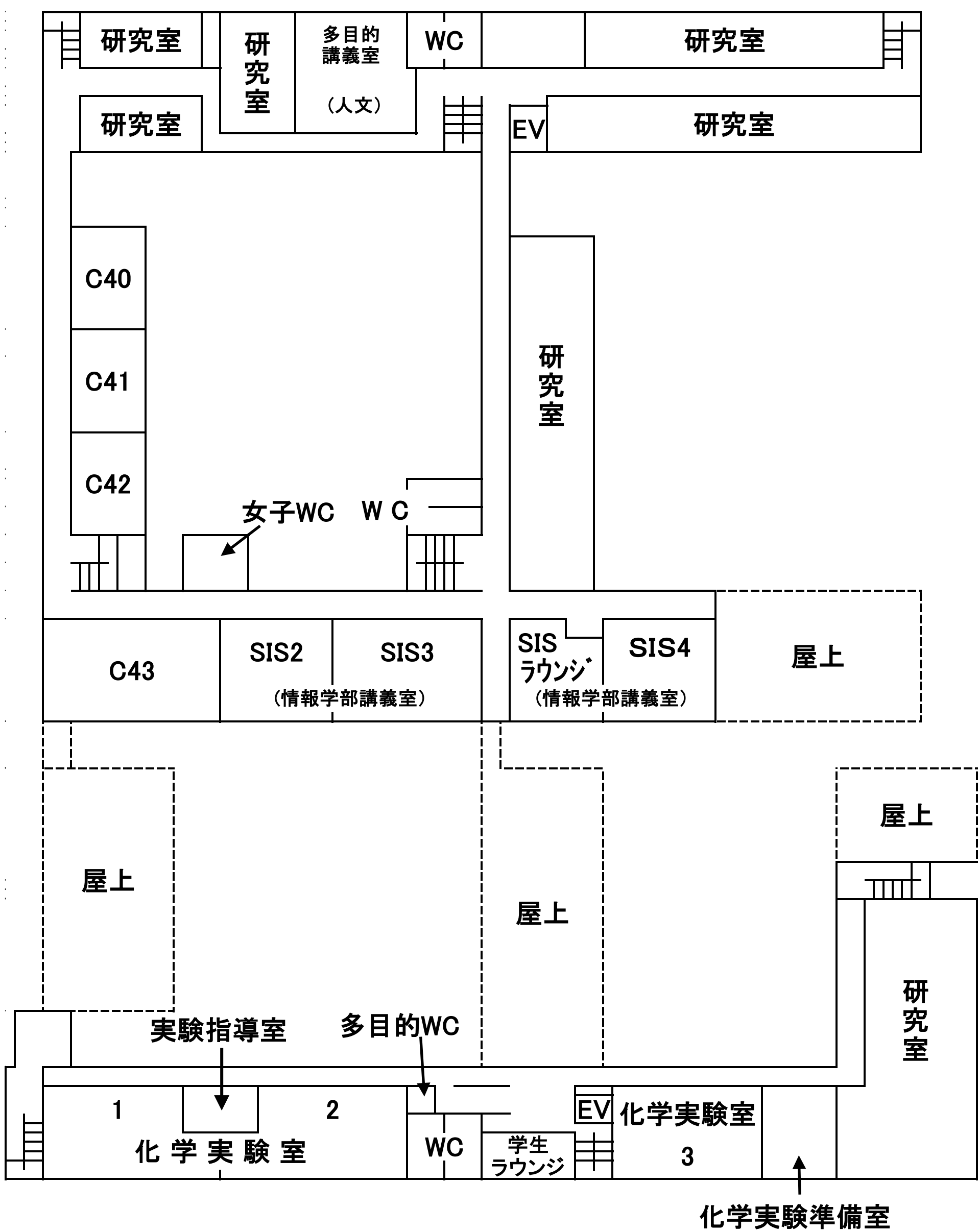
2階



3階

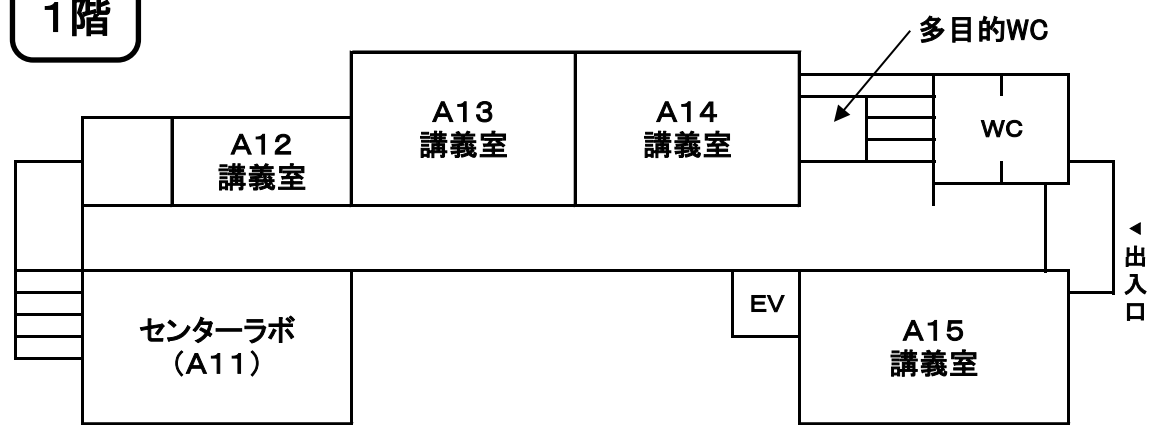


4階



<全学教育棟A館>

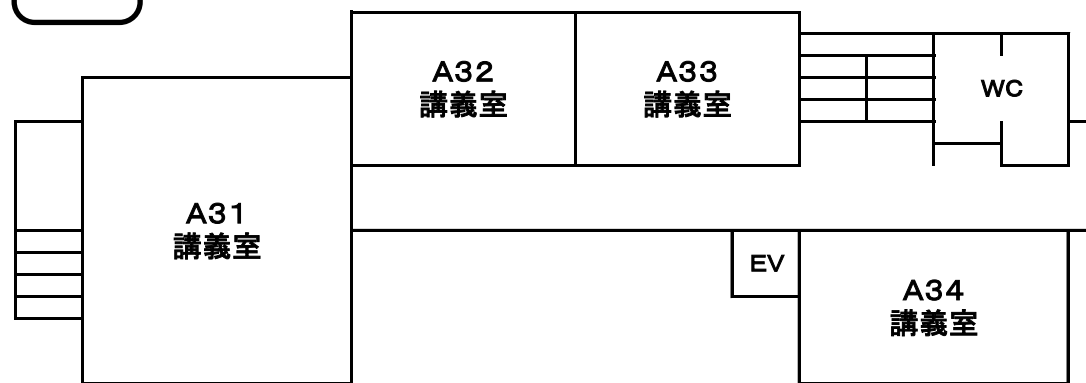
1階



2階



3階



《名古屋大学緊急地震速報システム》

東山キャンパスで震度5弱以上が予想されるときに、地震による強い揺れが起こる数十～数秒前に警報が発せられます。

『教養教育院では、年間を通して防災訓練を実施します』

近い将来、東海地方に大地震が発生した場合には、全学教育棟で授業を受けている2千人余りの学生が安全かつ迅速に屋外に避難することが必要となります。

教養教育院では、地震をはじめ、不意に発生する災害等に備え、非常時に学生や教職員が冷静かつ適切な判断や指示ができ、避難時の対応が安全かつ速やかにできることを目的に、年間を通して全学教育棟における防災訓練、避難・誘導訓練等を計画・実施しています。

この教養教育院における取り組みについてご理解いただき、訓練の実施にご協力願います。

教養教育院長

名古屋大学ポータルに緊急連絡用メールアドレスを登録してください！

名古屋大学安否確認システム

災害時には安否情報を大学へ伝えてください！
登録のメールアドレスに大学からメールが届きますので、案内に従って安否情報を入力してください。

緊急地震速報

放送メッセージが流れます。

- ・NHKチャイム音につづき、「身の安全を確保してください。」

緊急地震速報を聞いたら

強い揺れが起きるまでの時間は限られています。倒壊や破損しやすいものから離れるなど、身の安全を図るための最低限の行動を取ってください。

火を消す

安全姿勢

出入り口の確保

(講義室)机・イスが床に固定されている場合は、イスに座ったまま机につかまる。
固定されていない場合は、とにかく頭を守る。

(階段)踊り場へ出て安全姿勢。

地震発生せず

速報の後、しばらくしても地震が来ない場合は誤報の可能性もあるが、テレビ・ラジオ・インターネットなどで情報を集め、正式な発表があるまで警戒を解かないでください。

地震発生

『地震発生時初動マニュアル』

(次ページへ)

地震発生時 初動マニュアル(全学教育棟)

地震発生

- ① **まず、身を守る！**
バッグ、教科書などで落下物から頭を守り、揺れが収まるのを静かに待ってください。
- ② **非常脱出口の確保！**
余裕があれば、ドア付近にいる人は、出入り口の扉を開け通路を確保してください。
- ③ **素早く火の始末！**
実験中など火気を使っているときは、火を消す。薬品などから離れる。



地震発生後 1～2分（揺れが収まったら）

- ① **周囲の安全を確認！**
倒れた棚等の下敷きになっている人がいないかを確認してください。けがが人の有無を確認してください。
- ② **建物の状況を確認！**
建物が傾いていないか、壁にヒビが入ったり崩れたりしていないかなどを確認してください。
- ③ **作動中の実験器具等の停止！**
- ④ **火災の状況を確認！**
火災が起きた場合、自分の身が安全な範囲で、落ち着いて初期消火してください。



地震発生後 3分

- ① **隣接する部屋で助け合う！**
他の部屋・教室等で倒れた棚等の下敷きになっている人がいないか確認してください。
- ② **余震に注意！**
建物の状況により、余震で崩壊する恐れのある場合は、大学指定の避難場所（中央図書館西側グラウンド）に避難してください。

避難が必要な場合

建物の状況により、避難が必要と判断された場合は館内放送等により避難指示が出されますが、館内放送等が無くても状況により担当教員が避難することが必要と判断することもあります。

避難

担当教員の指示に従い避難してください。
日頃、教室から非常口までのルートを確認しておいてください。



- ① 落ち着いて避難してください。
- ② 障がい者の優先避難を支援してください。
※ 車椅子を利用している障がい者の避難の方法など、日頃から周りの人が意識していることが大切です。
- ③ 大きな荷物は所持しないで避難してください。
- ④ エレベーターの利用は禁止となります。
- ⑤ 避難の途中で立ち止まらないうようにしてください。
- ⑥ 『おはしも』を実践してください。
おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない

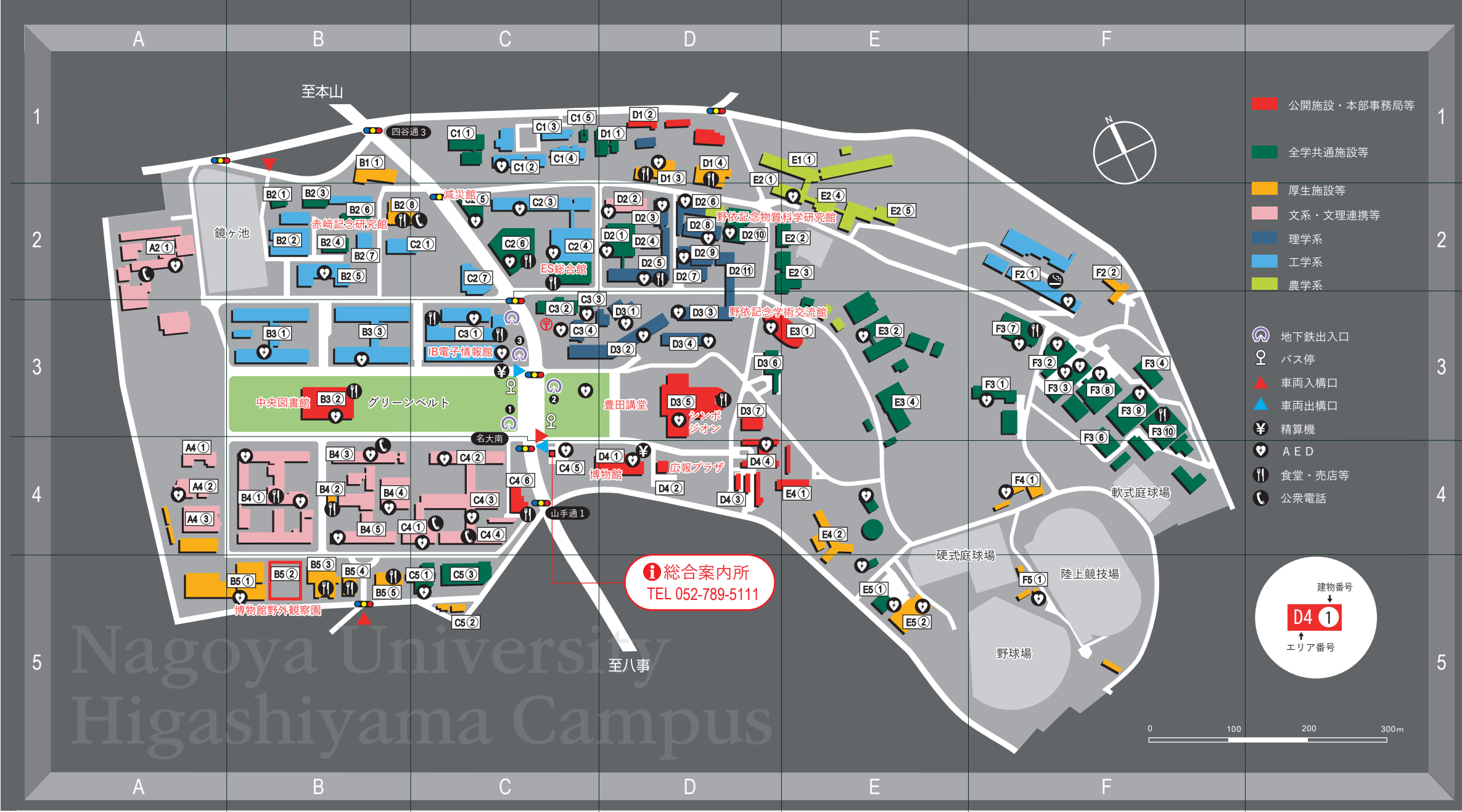


確認（教員が対応）

- ① 全員の教室退避を確認。
 - ② 隣接する教室の避難状況を確認。
 - ③ トイレの中を確認。
- 一時避難場所へ誘導（教員が対応）

一時待機

- ① 屋外に出たら、指定の一時避難場所待機してください。
- ② 安全が確認できるまで教室には戻らないでください。
- ③ 余震により外壁等が落下する恐れがありますので、建物から充分な距離を置いてください。
- ④ 大学からの案内・指示に従ってください。



総合案内・公開施設等	
C4 6	総合案内所
D4 1	博物館（古川記念館）
B3 2	附属図書館（中央図書館）
B2 6	赤崎記念研究館
C2 5	減災館
D4 2	広報プラザ
B5 2	博物館野外観察園
C2 4	2008ノーベル賞展示室（ES総合館）
D2 10	ケミストリーギャラリー（野依記念物質科学研究所）
C4 6	ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

コンベンション施設	
D3 6	豊田講堂・シンポジオン
B4 4	カンファレンスホール（文系総合館）
D2 7	坂田・平田ホール（理学南館）
C3 1	大講義室（IB電子情報館）
C2 7	オークマホール（オークマ工作機械工学館）
E3 1	野依記念学術交流館
C4 3	キタンホール（法・経本館共用館）
C2 4	ESホール（ES総合館）
C5 3	アジアコミュニティフォーラム（アジア法交流館）

本部事務局	
D3 7	本部1号館
E4 1	本部3号館
C4 1	国際開発棟
C2 6	ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）
D4 4	本部2号館
D4 3	本部4号館
D3 6	学生支援棟

部局事務局	
B4 4	文系事務局（文系総合館）
D2 10	理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部（理学部C館）
C3 1	工学部・工学研究科教務課（IB電子情報館）
D2 2	環境学研究科事務部（環境総合館）
F3 3	研究所事務部（研究所共同館Ⅰ）
B4 1	情報学部・情報学研究科事務部（全学教育棟本館）
C2 4	工学部・工学研究科総務課・経理課（ES総合館）
E2 1	農学部・生命農学研究科事務部（農学部管理棟）
F3 7	創薬科学研究科・細胞生理学研究所センター事務部（創薬科学研究館）
B3 2	附属図書館事務部（中央図書館）

文学部・人文学研究科・文学研究科・国際言語文化研究科	
B4 3	文学部本館
B4 1	全学教育棟本館
C4 1	国際開発棟
A4 2	人文学共用館
B4 4	文系総合館

教育学部・教育発達科学研究科	
B4 5	教育学部本館
A2 1	教育学部附属中学校・高等学校

法学部・法学研究科	
C4 4	法学部・法学研究科（法・経本館共用館）
B5 5	法科大学院（アメニティハウス）
C5 3	アジア法交流館

経済学部・経済学研究科	
C4 2	経済学部・経済学研究科（法・経本館共用館）

情報学部・情報学研究科・情報文化学部・情報科学研究科	
A4 3	情報学研究科棟
C3 1	IB電子情報館
C2 6	ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）
B4 1	全学教育棟本館
D3 3	理学部B館

理学部・理学研究科	
D3 2	A館
D2 10	C館
D2 5	E館
D2 3	G館
D2 6	理農館
D2 8	理学館
D3 3	B館
D2 9	D館
D2 4	F館
C3 4	理学部共用館
D2 7	理学南館
D3 1	極低温実験室

工学部・工学研究科	
C2 4	ES総合館
B2 6	1号館
B3 1	3号館
F2 1	6号館
C1 3	8号館北棟
C1 2	9号館
B2 7	機械学科実験棟
C2 7	オークマ工作機械工学館
C3 1	IB電子情報館
B3 3	2号館
C2 3	5号館
C2 1	7号館A棟
C1 4	8号館南棟
B2 2	航空・機械実験棟
C3 1	創造工学センター（IB電子情報館）

農学部・生命農学研究科	
E1 1	A館
E2 4	講義棟
D2 6	理農館
E2 6	B館
E2 1	管理棟

国際開発研究科	
C4 1	国際開発棟

多元数理科学研究科	
D3 4	多元数理科学棟

環境学研究科	
D2 2	環境総合館
C2 4	ES総合館
F3 1	環境共用館
B4 1	全学教育棟本館
D2 6	理学部E館

創薬科学研究科	
F3 7	創薬科学研究館
F2 1	工学部6号館

教養教育院	
B4 1	全学教育棟本館
A4 1	全学教育棟A館
アジアサテライトキャンパス学院	
E4 1	本部3号館
高等研究院	
F3 2	高等総合研究館
トランスフォーマティブ生命分子研究所	
D2 1	ITbM
総合保健体育科学センター	
E5 1	総合保健体育科学センター
C3 3	保健管理室
未来社会創造機構	
C2 6	ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）
F3 4	グリーンピークル材料研究施設
アジア共創教育研究機構	
C4 3	法・経本館共用館
素粒子宇宙起源研究所	
C2 4	ES総合館
附置研究所・全国共同利用施設	
E3 2	環境医学研究所
F3 8	宇宙地球環境研究所（研究所共同館Ⅱ）
F3 8	未来材料・システム研究所（研究所共同館Ⅱ）
D1 1	（超高压電子顕微鏡施設）
F3 9	（エネルギー変換エレクトロニクス実験施設）
F3 9	宇宙地球環境研究所（研究所共同館Ⅰ）
D4 1	宇宙地球環境研究所（古川記念館）
C1 1	未来材料・システム研究所（先端技術共同研究施設）
F3 6	（総合研究実験棟）
F3 10	（エネルギー変換エレクトロニクス研究館）
C3 2	情報基盤センター

学内共同教育研究施設等 その他教育研究施設	
D1 2	大学文書資料室（本部別館）
A4 1	情報メディア教育システムセンターラゴ（全学教育棟A館）
B4 4	高等教育研究センター（文系総合館）
D2 4	遺伝子実験施設（理学部F館）
C3 1	国際教育交流センター・アドバイシング部門（IB電子情報館）
E1 1	農学国際教育研究センター（農学部A館）
B2 6	赤崎記念研究センター（赤崎記念研究館）
C2 5	災害対策室（減災館）
C2 6	学術研究・産学官連携推進本部（NIC）
C5 1	国際教育交流センター（国際棟）
C5 3	法政国際教育協力研究センター（アジア法交流館）
D3 6	学生相談センター（学生支援棟）
E2 2	生物機能開発利用研究センター
E3 4	ナショナルコンボジットセンター
D1 2	男女共同参画センター（本部別館）
B4 1	アビリティ支援センター（全学教育棟本館）
B4 5	心の発達支援研究実践センター（教育学部本館）
C1 4	シンクロtron光研究センター（工学部8号館南棟）
F2 1	細胞生理学研究所（工学部6号館）
B2 1	高効率エネルギー変換研究施設
C1 6	全学技術センター設備・機器共用推進室（超高压高温発生装置室）
C2 5	減災連携研究センター（減災館）
C2 6	予防早期医療創成センター（NIC）
C5 1	国際言語センター（国際棟）
D2 10	物質科学国際研究センター（野依記念物質科学研究所）
C3 6	キャリアサポートセンター（学生支援棟）
E2 3	アイソトープ総合センター

産学官連携関連施設	
B2 3	インキュベーション施設
F3 4	グリーンピークル材料研究施設
B2 4	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
C2 6	ナショナルイノベーションコンプレックス（NIC）

スポーツ関連施設	
B5 1	体育館・屋内プール
F4 1	体育合宿所
E5 2	新体育館
B5 1	総合運動場複合棟

食堂・売店等	
B3 2	スターバックス（中央図書館）
B4 1	ブランゾ（全学教育棟本館）
D2 6	クレイグスカフェ（理学部E館）
C2 4	シェ・ジロー（ES総合館）
F3 7	ラボショップ（創薬科学研究館）
B4 2	C3 1 ファミリーマート
B5 4	南部厚生会館
D1 3	フォレスト
C4 6	CAFE BLANC（ジェンダー・リサーチ・ライブラリ）
D3 6	ユニバーサルクラブ（豊田講堂・シンポジオン）
B4 1	reg reg（全学教育棟本館）
C3 1	IBカフェ（IB電子情報館）
C2 6	シアトルエスプレッソカフェ（NIC）
B2 6	北部厚生会館
B5 3	南部食堂
B5 6	アメニティハウス
D1 4	グリーンサロン東山
F3 10	Cafe de MON CIRFE（C-TECs）

その他	
C3 3	保健管理室
C5 2	名大八雲会館
F2 2	リサーチチャーズ・ビレッジ東山
B1 1	学生会館
E4 2	インターナショナルレジデンス東山